

令和4年度

履修科目ガイド

理学療法学科

【1～3年】

リハビリテーションカレッジ島根

教育内容	授業科目	単 位	履修時間	1年		2年		3年		4年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	心理学	2	30		30							
	日本語表現	2	30	30								
	人間関係学	2	30		30							
	コミュニケーション論	2	30	30								
	統計学	2	30	30								
	生物学	2	30	30								
	物理学	2	30	15	15							
	保健体育(実技)	1	45		45							
	英会話	2	30		30							
	ボランティア論	2	30			15	15					
19単位/ 10科目 合計		19	315	180	105	15	15	0	0	0	0	
専門基礎分野	解剖学Ⅰ(骨学・靭帯学・筋学)	4	60	30	30							
	解剖学Ⅱ(循環器学・内臓学・神経学)	4	60	30	30							
	解剖運動学	2	30	15	15							
	体表解剖学	4	60			30	30					
	生理学	4	60	30	30							
	解剖生理学	2	30	15	15							
	運動学演習	1	30		30							
	運動生理学	2	30			15	15					
	基礎運動学	4	60	30	30							
	関節運動学	4	60			30	30					
	人間発達学	2	30		30							
	33単位/ 11科目 合計		33	510	150	210	75	75	0	0	0	0
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	2	30			15	15				
		病理学	1	15			15					
		内科学	4	60			30	30				
老年学		1	15				15					
整形外科		4	60			30	30					
神経内科学		2	30			15	15					
中枢神経障害学		2	30			30						
小児科学		1	15				15					
精神医学		2	30			15	15					
リハビリテーション医学(薬理・栄養含)		4	60			30	30					
画像診断学		2	30			15	15					
救命医学		2	30			30						
27単位/ 12科目 合計		27	405	0	0	225	180	0	0	0	0	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2	30	15	15							
	社会保障学	2	30					30				
	4単位/ 2科目 合計		4	60	15	15	0	0	30	0	0	0
基礎理学療法学	理学療法概論	2	30	30								
	理学療法研究法	4	60					30	30			
	6単位/ 2科目 合計		6	90	30				30	30		
	理学療法管理学	理学療法管理運営論	2	30						30		
		2単位/ 1科目 合計		2	30	0	0	0	0	0	30	0
	理学療法評価学	基礎理学療法評価学	4	60	30	30						
		理学療法評価演習	2	60			30	30				
		疾患別理学療法演習	2	60					30	30		
		クリニカルリーズニング論	4	60					30	30		
		動作分析学	4	60					30	30		
16単位/ 5科目 合計		16	300	30	30	30	30	90	90	0	0	
理学療法治療学	基礎運動療法	4	60			30	30					
	徒手療法	2	60			30	30					
	基礎物理療法	2	30			30						
	物理療法演習	1	30				30					
	ADL論	2	30					30				
	装具学	2	30					30				
	義肢学	2	30						30			
	中枢神経治療学	2	30					15	15			
	中枢神経治療学演習	2	60					30	30			
	運動器疾患治療学	2	30					15	15			
	運動器疾患治療学演習	2	60					30	30			
	脊髄損傷治療学	4	60					30	30			
	小児疾患系治療学	2	30					30				
	内部障害治療学	4	60					30	30			
	神経筋疾患治療学	2	30						30			
	臨床学	4	60							30	30	
	スポーツ健康増進学	2	30					15	15			
	総合理学療法演習	1	30							15	15	
45単位/ 18科目 合計		42	750	0	0	90	90	255	225	45	45	
地域理学療法学	地域理学療法学	2	30					30				
	生活環境学	2	30					30				
	4単位/ 2科目 合計		4	60	0	0	0	0	60	0	0	0
臨床実習	臨床見学実習	1	45		45							
	臨床評価実習	2	90				90					
	臨床地域実習	2	90						90			
	臨床短期実習	3	135							135		
	臨床総合実習	16	720								360	
24単位/ 5科目 合計		24	1080	0	45	0	90	0	225	360	360	
総単位数・時間数及び各学年時間数		177	3600	405	405	435	480	465	600	405	405	
				810		915		1065		810		

目 次

◎1年次 開講科目

心理学	1
日本語表現	2
人間関係学	3
コミュニケーション論	4
統計学	5
生物学	6
物理学	7
保健体育(実技)	8
英会話	9
解剖学Ⅰ(骨学・靭帯学・筋学)	10
解剖学Ⅱ(循環器学・内臓学・神経学)	11
解剖運動学	12
生理学	13
解剖生理学	14
運動学演習	15
基礎運動学	16
人間発達学	17
リハビリテーション概論	18
理学療法概論	19
基礎理学療法評価学	20
臨床見学実習	21

◎2年次 開講科目

ボランティア論	22
体表解剖学	23
運動生理学	24
関節運動学	25
臨床心理学	26
病理学	27
内科学	28
老年学	29
整形外科学	30
神経内科学	31
中枢神経障害学	32
小児科学	33
精神医学	34
リハビリテーション医学(薬理・栄養含)	35
画像診断学	36
救命医学	37
理学療法評価演習	38
基礎運動療法	39
徒手療法	40
基礎物理療法	41
物理療法演習	42
臨床評価実習	43

◎3年次 開講科目

社会保障学	44
理学療法研究法	45
理学療法管理運営論	46
疾患別理学療法演習	47
クリニカルリーズニング論	48
動作分析学	49
ADL論	50
装具学	51
義肢学	52
中枢神経治療学	53
中枢神経治療学演習	54
運動器疾患治療学	55
運動器疾患治療学演習	56
脊髄損傷治療学	57
小児疾患系治療学	58
内部障害治療学	59
神経筋疾患治療学	60
スポーツ健康増進学	61
地域理学療法学	*
生活環境学	62
臨床地域実習	63
臨床短期実習	64

(注) *の講義科目に関しては、担当講師の都合により後日配布します。

1年次

開講科目

授業科目名	心理学			(フリガナ) 担当教員名	イワハシ ユカ 岩橋 由佳
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
心理学全般を広く紹介します。臨床場面のみならず日々使える心理学をお伝えします。授業内容は進行具合で変更することがあります。					
GIO (一般目標)					
心理学の基礎的な知識を身につけることができる。					
SBO (行動目標)					
心理学全般を学び日頃の生活面及び臨床場面で活かすことができる。					
授業回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション・心理学概説				
第2回	心理学概説(2)				
第3回	感覚・知覚・注意・認知				
第4回	情動・動機付け・パーソナリティ・社会				
第5回	記憶・学習				
第6回	言語・概念・思考				
第7回	発達と知能				
第8回	臨床心理学とは				
第9回	防衛機制				
第10回	心理アセスメント				
第11回	臨床で用いられる心理検査				
第12回	臨床心理学の介入方法(行動的)				
第13回	臨床心理学の介入技法(内面的)				
第14回	臨床心理学の介入技法(相談的)				
第15回	統括 心理学のまとめ				
成績評価基準					
筆記試験100%					
教科書					
内山 靖・藤井 浩美・立石 雅子 編：リハベーシック 心理学・臨床心理学；医歯薬出版株式会社					
参考書					
実務経験に関する内容					
臨床心理士、公認心理師の資格を有する講師により、心理学の基本的な知識について教育する。					

授業科目名	日本語表現			(フリガナ) 担当教員名	フクダ カズコ 福田 和子
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
古事記神話を読む 小論文を書く 毎時間小テスト					
GIO (一般目標)					
古事記神話の概要を理解する 論理的思考をする					
SBO (行動目標)					
神話で語られている考え方が現代に活着ていることを説明できる 論理的思考に基づいて小論文を書いてみる					
授業回数	授業内容				
第1回	古事記について 国生み ・ 神生み				
第2回	天岩戸				
第3回	ヤマタのオロチ退治				
第4回	因幡の白兔				
第5回	オオクニヌシの国作り・国譲り				
第6回	天孫降臨				
第7回	竜宮伝説				
第8回	まとめ				
第9回	論理的思考力				
第10回	言い換える力①				
第11回	言い換える力②				
第12回	比べる力				
第13回	たどる力				
第14回	小論文①				
第15回	小論文②				
成績評価基準					
定期試験70% 小テスト15% 出席15%					
教科書					
まんが 古事記 ふわこういちろう 著 戸矢学 監修 講談社					
参考書					
実務経験に関する内容					

授業科目名	人間関係学			(フリガナ) 担当教員名	オオニシケイコ 大西 恵子
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
「人間関係学」「ビジネスマナー」とつきにくそうなこのテーマを皆さんと学びましょう。 15時間の講義が終わる頃には、きっと何かが変わっているはずですよ。					
GIO (一般目標)					
円滑な人間関係を保つために自己発見とマナーの習得					
SBO (行動目標)					
マナーの基本を説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	はじめに 「社会人に求められる能力」				
第2回	" 「自分の今を見つめてみよう」				
第3回	ビジネスマナーとは? 「マナーの重要性」				
第4回	「マナーの基本になる5つのエレメント」				
第5回	コミュニケーション能力を磨こう (1)		「話し方と聞き方」		
第6回	"				
第7回	コミュニケーション能力を磨こう (2)		「報告、連絡、相談」		
第8回	「思いやりとおせっかいのちがい」				
第9回	コミュニケーション能力を磨こう (3)		「電話での受け答え」		
第10回	「 " 」				
第11回	ビジネスマナーの実際		「電話応対」		
第12回	「訪問のしかた」				
第13回	「仕事の中での接し方」				
第14回	「お礼状や報告書の作成」				
第15回	まとめ (レポートテスト)		「あなたにとって人間関係学とは？」		
成績評価基準					
出席を重視します 50%					
毎回提出していただくレポート(講義中に作成)		50%	課題作成 1回		
教科書					
デジタル時代のマナー術 トータルセルフチェックシート 講義ごとに配布するプリント					
参考書					
実務経験に関する内容					
キャリアコンサルタントの資格を有する講師が、「人間関係」「ビジネスマナー」を中心とした、 円滑な人間関係を保つための自己発見とマナーに関する教育を行う。					

授業科目名	コミュニケーション論			(フリガナ) 担当教員名	ヒラヤス ルメ 平安 留女
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
自他を尊重した人間関係のコミュニケーションの基本的考え方と方法であるアサーション・トレーニング（理論編と実践編）を学ぶ。					
GIO（一般目標）					
理論編：アサーションの認知学習を行う。					
実践編：見学・評価・臨床実習などにおいて「今まで出会ったことのないような問題に出会った時」「咄嗟に相手に対してどう言ったらよいのか思いつかない時」などの場面を想定し、ロール・プレイを実践することで必要なスキルを身につける。					
SBO（行動目標）					
①頼まれごとをされた時、自分の気持ちをいつわらず「同意する」「同意できない」が言えるようになる。					
②相手を大切にしつつ自分の気持ちや考えを表現できるようになる。					
③必要な時、自分の意見がはっきり言えるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	アサーションとは？				
第2回	あなたのアサーション度は？				
第3回	自己紹介の実際				
第4回	人間関係のもち方の3つのタイプ				
第5回	アサーション チェック リスト				
第6回	認知学習（論理療法）				
第7回	論理療法における練習問題				
第8回	DESC法(問題を解決するための効果的な方法)の理解と実践				
第9回	DESC法（ロール・プレイ①）				
第10回	DESC法（ロール・プレイ②）				
第11回	DESC法（ロール・プレイ③）				
第12回	DESC法（ロール・プレイ④）				
第13回	DESC法（ロール・プレイ⑤）				
第14回	DESC法（ロール・プレイ⑥）				
第15回	アサーション・トレーニングの効果（変化）のフィードバック				
成績評価基準					
レポート（100%）					
教科書					
配布資料					
参考書					
平木典子「アサーション・トレーニング さわやかなく自己表現>のために」（2014）					
園田雅代「イラスト版子どものアサーション 自分の気持ちがきちんと言える38の話し方」（2014）					
平木典子編集「現代のエスプリ アサーション・トレーニング」（2005）					
実務経験に関する内容					
様々な学校およびクリニックで相談・支援業務の経験を有する公認心理師が、自他を尊重した人間関係のコミュニケーション方法であるアサーション・トレーニングを理論から実践について教育する。					

授業科目名	統計学			(フリガナ) 担当教員名	サカモト クニ ヒロ 坂本 邦博
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
パソコンは、学生の時も社会人になっても、不可欠な道具です。 楽しく学習しましょう。					
GIO (一般目標)					
多種多様な大量の情報から必要なものを抽出・分析して、「真理」を探求し、その結果を正しく「発信」する技能を習得する。					
SBO (行動目標)					
①Word、Excelの基本操作ができる。 ②パワーポイントが作成できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	パソコンの基本操作				
第2回	ファイル管理				
第3回	Word 基本操作・文字入力				
第4回	Word 文章作成・修飾・編集				
第5回	Word 表の作成・印刷				
第6回	Word 表現力のアップ				
第7回	Word 段組み				
第8回	Power Point 基礎				
第9回	Excel 関数(1)				
第10回	Excel 関数(2)				
第11回	Excel グラフ機能の活用				
第12回	Excel データベース機能の活用				
第13回	Excel ピボットテーブルとピボットグラフ機能				
第14回	Excel マクロ機能				
第15回	総合演習				
成績評価基準					
演習試験	50%				
課題	20%				
出席・授業姿勢	30%				
教科書					
よくわかるMicrosoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft Power Point 2019 FOM出版					
参考書					
医療・看護系のための情報リテラシー (東京出版)					
実務経験に関する内容					
企業でプログラミングに従事したきた教員により、データの集積と検索、及び分析の複雑な手操作を自動化する方法を教育する。					

授業科目名	生物学			(フリガナ) 担当教員名	タキグチ モト ユキ 滝口 素行
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
生物学の基礎を学びつつ、福祉に関係ありそうなトピックをとりあげ、考えてみる。					
GIO (一般目標)					
生物学の基礎的内容を理解する。また、話題になっている、医・福的内容について生物学的観点から考える。					
SBO (行動目標)					
出席・態度を重視 きちんとレポートを書き、提出する					
授業回数	授業内容				
第1回	授業の内容・評価の方法				
第2回	感染症				
第3回	免疫				
第4回	メンデル遺伝				
第5回	分子遺伝				
第6回	ゲノム編集				
第7回	ips細胞				
第8回	脳 1				
第9回	脳 2				
第10回	脳 3				
第11回	脳 4				
第12回	進化 1				
第13回	進化 2				
第14回	進化心理学 1				
第15回	進化心理学 2				
成績評価基準					
1. 出席・態度	10%				
2. レポート	90%				
教科書					
プリント配布					
参考書					
特になし					
実務経験に関する内容					

授業科目名	物理学			(フリガナ) 担当教員名	ナカヤマ ジュンペイ 中山 純平
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
身体構造に関する力学、および治療に関わる物理法則についての理解を目指す。一方的な講義だけではなく演習の時間を多く設け、知識を「使う」ための練習をして真の理解につなげる。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・力学 (特に、身体にかかる力の構造) について理解すること。 ・電気・熱・波動・原子力 (特に、治療や治療器具等の原理) について理解すること。 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱った内容を他者に説明できること。 ・身体運動や治療について、物理的視点から考察できること。 					
授業回数	授業内容				
第1回	力の図示、作用・反作用の法則、力のつりあい、力の合成・分解				
第2回	力のモーメントとてこの原理①				
第3回	力のモーメントとてこの原理②				
第4回	生体に存在するてこ①				
第5回	生体に存在するてこ②				
第6回	回転する物体とてこ (輪じく・滑車・歯車)				
第7回	問題演習				
第8回	いろいろな力 (ばねの力、摩擦力など)				
第9回	加速度とは何か (速度と加速度の関係、加速度と力の関係)				
第10回	力学的エネルギー				
第11回	浮力と圧力				
第12回	電気の基本 (直流と交流のちがひ、オームの法則、コンデンサーなど)				
第13回	波・音・熱・光・電波など				
第14回	問題演習				
第15回	問題演習				
成績評価基準					
①授業ごとのレポート (学習に対する姿勢、物理に対する思考力・考察力)					
②定期試験 (物理に対する理解度)					
※①②両方が合格水準に到達していること					
教科書					
『PT・OT・PO 身体運動の理解につなげる物理学』 著：江原義弘ら 発行：南江堂					
参考書					
配布資料					
実務経験に関する内容					

授業科目名	保健体育（実技）			（フリガナ） 担当教員名	タハラ タダアキ スズキ ユウコ ナカムタ ヒロノリ 田原忠明・鈴木裕子・中牟田祐典
開講学年	1年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	演習	単位数	1	時間数	45
授業概要					
自らの健康に留意し、仲間との関わりを豊かにしてスポーツに自主的に親しむ。（田原）					
GIO（一般目標）					
他人と比較することなく、自らの動きに意識させ、自らの身体をしっかりと動かし、自分と向き合う時間を創る。（田原）					
SBO（行動目標）					
自ら見て、聞いて、考え、判断し、行動することで 自らの技術の上達、成長を体感・体得する。（田原）					
授業回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション・アンケート・アイスブレイク等（田原）				
第2回	軽スポーツ（田原）				
第3回	軽スポーツ（田原）				
第4回	軽スポーツ（田原）				
第5回	軽スポーツ（田原）				
第6回	軽スポーツ（田原）				
第7回	軽スポーツ（田原）				
第8回	オリエンテーション・アンケート等（田原）				
第9回	軽スポーツ（田原）				
第10回	軽スポーツ（田原）				
第11回	軽スポーツ（田原）				
第12回	軽スポーツ（田原）				
第13回	軽スポーツ（田原）				
第14回	軽スポーツ（田原）				
第15回	筋力・体脂肪測定(中牟田)				
第16回	ストレッチ（中牟田）				
第17回	ストレッチ（中牟田）				
第18回	筋力トレーニング（中牟田）				
第19回	筋力トレーニング（中牟田）				
第20回	障がい者スポーツの意義と理念（鈴木）				
第21回	安全管理（鈴木）				
第22回	全国障害者スポーツ大会の概要（鈴木）				
第23回	障がい者スポーツ推進の取り組み（鈴木）				
成績評価基準					
出席 50%、関心・意欲・態度 30%、技能 20%（田原）					
参考書					
備考					
実務経験に関する内容					
田原：中学校、高等学校教諭免許（保健体育）を有し、保健体育の指導を行ってきた教員が担当する。					

授業科目名	英会話			(フリガナ) 担当教員名	ハラダ 原田 レネー
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
Reviewing basic English Communication Skills. 英会話の練習。簡単な文法でコミュニケーションできるようになりましょう。					
GIO (一般目標)					
Few therapists use English conversation at work so why should they study English conversation? Communicating only in English is like a handicap for some. It's frustrating and it's hard. It's much like rehabilitation. The patient often wants to do something but cannot do so freely. Being in an English only environment, students learn how their future patients will feel. They learn that by trying and effort, they can do it.					
SBO (行動目標)					
①簡単な日常英会話ができるようになる。 ②簡単な英文を理解できるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	Spelling Practice	綴りの練習	Greetings/ Introductions 挨拶 ・ 紹介		
第2回	Numbers pronunciation	数字の発音			
第3回	verb 'to be' + adjectives	be 動詞 + 形容詞	Descriptions 描写		
第4回	Making sentences	短い文章の作成 主語 + 動詞 + 目的語	Building blocks of English 英語の基本		
第5回	Prepositions	前置詞	Where are you?		
第6回	Adverbs of frequency	頻度の副詞	sometimes/ usually/ never		
第7回	Asking questions Do you + 動詞	do動詞を使って疑問の作成	クイズ作成		
第8回	Asking questions Are you + 形容詞・補語	be動詞を使って疑問の作成	クイズ		
第9回	There is/ There are	～がある・いる	Descriptions of places 場所を描写		
第10回	Imperatives	命令文	薬局のロールプレー		
第11回	Imperatives + Review prepositions	命令文	道を教える事		
第12回	Abilities	can + 動詞	出来る・出来ない		
第13回	Present progressive	be動詞 + ～ing			
第14回	Near future	be動詞 + ～ingの復習	Making and appointment 近い将来		
第15回	総合演習				
成績評価基準					
20% participation	積極的参加度				
20% quiz	小テスト				
60% final exam	最終試験				
教科書					
英会話 I English Conversation for Therapists 英和英辞書*					
参考書					
実務経験に関する内容					
英会話教師による基本的な英会話について、ロールプレーを交えて教育を行う。					

授業科目名	解剖学 I (骨学・靭帯学・筋学)			(フリガナ) 担当教員名	カキモト ショウヘイ イシカワ シンジ ヨシカワ コウジロウ 柿本将平・石川慎二・吉川幸次郎			
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修			
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60			
授業概要								
前期は主に骨学・骨の連結について講義を実施する。後期は骨の連結に加えて筋学に関する講義を行う。								
GIO (一般目標)								
骨・関節・靭帯・筋の構造をイメージできるようになる。								
SBO (行動目標)								
習得すべき知識量は膨大なので毎回復習をすること。								
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容			
第1回	脊椎・胸郭の解剖	吉川	石川	第16回	骨盤連結	吉川		
第2回	脊椎・胸郭の解剖			第17回	骨盤周囲 殿部の筋			
第3回	付属性骨格 (下肢帯) の解剖			第18回	自由下肢連結			
第4回	付属性骨格 (下肢) の解剖			第19回	自由下肢の筋			
第5回	付属性骨格 (下肢) の解剖			第20回	自由下肢の筋			
第6回	付属性骨格 (下肢) の解剖			第21回	自由下肢の筋			
第7回	体軸性骨格 (頭蓋骨) の解剖			第22回	肩関節・上肢帯の筋		石川	
第8回	体軸性骨格 (頭蓋骨) の解剖			第23回	自由上肢連結			
第9回	体軸性骨格 (頭蓋骨) の解剖			第24回	自由上肢の筋			
第10回	付属性骨格 (上肢帯) の解剖			石川	第25回		自由上肢の筋	吉川
第11回	付属性骨格 (上肢) の解剖				第26回		頭頸部・咽頭・喉頭筋	
第12回	付属性骨格 (上肢) の解剖				第27回		頭頸部・咽頭・喉頭筋	
第13回	付属性骨格 (上肢) の解剖			柿本	第28回		頭頸部・咽頭・喉頭筋	
第14回	脊柱・頭蓋骨・胸郭の連結				第29回		腹部・胸郭の筋	
第15回	上肢帯の連結				第30回		腹部・胸郭の筋	
成績評価基準								
前・後期それぞれ筆記テストを実施する。 筆記試験100%								
教科書								
奈良勲 鎌倉矩子 : 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学, 医学書院 (第5版) 渡辺正仁 : PT・OT・STのための解剖学 廣川書店								
参考書								
実務経験に関する内容								
本科目はオムニバスである。医療機関等で理学療法士、作業療法士として従事してきた教員が骨・筋・関節・靭帯など筋骨格系の講義を行う。骨模型等を用いた実践的な教育を行う。								

授業科目名	解剖学Ⅱ（循環器学・内臓学・神経学）			(フリガナ) 担当教員名	キッカワ 吉川 コウジロウ 幸次郎
開講学年	1	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
身体の内臓および神経系の構造を全般にわたり学習する。					
GIO（一般目標）					
①人体の構造をはたらきと関連づけて理解できるようになること。 ②学習終了時に循環器・神経の名称や位置を習得し、各組織の働きについても理解が可能となり、					
SBO（行動目標）					
講義の中で、教科書内の図や文章から各身体部位の構造を習得する。演習問題も実施する。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	細胞とは、組織学：上皮、腺、結合組織の構造			第16回	感覚器系：皮膚の感覚・特殊感覚
第2回	組織学：骨、軟骨の構造			第17回	内分泌系：ホルモン分泌組織・器官
第3回	神経系：神経系総論			第18回	脊髄
第4回	筋骨格系：筋総論			第19回	脳幹
第5回	循環器系：心臓			第20回	中脳・小脳・間脳
第6回	呼吸器系：鼻腔・気管・気管支			第21回	大脳①
第7回	呼吸器系：肺			第22回	大脳②
第8回	消化器系：口腔・食道			第23回	脳神経①
第9回	消化器系：胃・小腸・大腸			第24回	脳神経②
第10回	消化器系：胆嚢・肝臓・膵臓			第25回	脳の血管
第11回	泌尿器系：腎臓			第26回	脊髄神経①
第12回	泌尿器系：腎臓その他の泌尿器			第27回	脊髄神経②
第13回	男女生殖器：男女生殖器の構造と男女の違い			第28回	運動・感覚の伝導路
第14回	循環器系：全身の血管			第29回	自律神経
第15回	循環器系：静脈・リンパ			第30回	発生学：人体発生学
成績評価基準					
筆記100%					
教科書					
奈良勲 鎌倉矩子：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学，医学書院（第5版） 渡辺正仁：PT・OT・STのための解剖学 廣川書店					
参考書					
実務経験に関する内容					
介護老人保健施設で実務に従事し、大学院にて解剖学を研究した講師が担当する。					

授業科目名	解剖運動学			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ ヒロノリ 中牟田 祐典
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
日本人に多い疾患を解剖学・運動学を中心に学ぶ。					
GIO (一般目標)					
肩関節周囲炎,腰椎椎間板ヘルニア,変形性関節症の概要を理解し説明できる。					
SBO (行動目標)					
肩甲上腕リズムについて説明できる。FTAと頸体角の違いを説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	肩関節周囲炎について				
第2回	肩関節 (総論・靭帯)				
第3回	肩関節 (関節運動)				
第4回	急性腰椎捻挫について				
第5回	腰椎椎間板ヘルニアについて				
第6回	脊柱 (総論・靭帯)				
第7回	脊柱 (関節運動)				
第8回	変形性股関節症について				
第9回	股関節 (総論・靭帯)				
第10回	股関節 (関節運動)				
第11回	股関節 (機能解剖)				
第12回	変形性膝関節症について				
第13回	膝関節 (総論・靭帯)				
第14回	膝関節 (関節運動)				
第15回	膝関節 (機能解剖)				
成績評価基準					
前期・後期に定期試験を実施する。60点未満は再試験を実施する。					
教科書					
中村隆一 斉藤宏 長崎浩 著:基礎運動学 第6版. 医歯薬出版株式会社, 2012 適宜プリント配布					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科病院 (術前・術後) で5年勤務し、入院・外来で担当した疾患を中心に解剖学・運動学を中心に提供できる。					

授業科目名	生理学			(フリガナ) 担当教員名	ハシモト ミチオ マツザキ ケンタロウ 橋本 道男・松崎 健太郎 ヤマシロ ヤスヒロ 山城 安啓
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
生理学はただ覚えるだけの学問ではありませんので、難しいといわれますが、良く考えて一度理解するとその面白さが分かると思います。がんばって学習してください。(橋本・松崎)					
復習を中心とした勉強をお願いします。(山城)					
GIO (一般目標)					
ヒトの生理的機能の基本的事項について個体レベルを中心に学ぶ。					
SBO (行動目標)					
①人体の基本的構造と機能を理解する。					
②神経と筋肉の基本的機能・神経系の機能および感覚器について理解する。					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	イントロダクション、代謝		第16回	生理学の基礎 1	
第2回	体温の調節、発熱とはなにか		第17回	" 2	
第3回	消化器系の概要		第18回	" 3	
第4回	消化、吸収のしくみ		第19回	" 4	
第5回	循環系の概要		第20回	筋肉の基本的機能 1	
第6回	心臓と血管の働き		第21回	" 2	
第7回	血圧の調節		第22回	" 3	
第8回	血液のはたらき、凝固系		第23回	神経の基本的機能 1	
第9回	呼吸のしくみ		第24回	" 2	
第10回	酸素、二酸化炭素の運搬		第25回	神経系の機能 1	
第11回	尿の生成と排泄		第26回	" 2	
第12回	体液とその調節		第27回	感覚の生理学 1	
第13回	内分泌系の概要		第28回	" 2	
第14回	ホルモンの調節と役割		第29回	" 3	
第15回	生殖のしくみ		第30回	" 4	
成績評価基準					
筆記試験80% (橋本・松崎)					
出席20% (橋本・松崎)					
復習小テスト 又は レポート (山城)					
本試験 (山城)					
教科書					
貴邑富久子、根来英雄 : シンプル生理学. 南江堂 2016年改訂第7版 (山城)					
参考書					
人体の構造と機能[1] 解剖生理学 ; 医学書院 (橋本・松崎)					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。臨床検査技師免許を有する講師や、日本生理学会、日本生気象学会に所属する講師により、生理学の基本的知識について講義する。					

授業科目名	解剖生理学			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ 中牟田 ヒロノリ 祐典
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
基本的疾患の解剖学と生理学を実施します。					
GIO (一般目標)					
遅発性筋痛、心筋梗塞、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病の概要を理解し、説明できる。					
SBO (行動目標)					
筋の滑走説が説明できる。心臓の刺激伝達系が説明できる。拘束性換気障害と閉塞性換気障害の違いについて説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	遅発性筋痛症について				
第2回	筋の滑走説および筋収縮について				
第3回	筋力について				
第4回	心筋梗塞について				
第5回	心臓についての解剖 (血管・名称)				
第6回	心臓の刺激伝達系について				
第7回	心電図について				
第8回	慢性閉塞性肺疾患について				
第9回	肺について				
第10回	呼吸について				
第11回	拘束性換気障害と閉塞性換気障害について				
第12回	糖尿病について				
第13回	インスリン・膵臓の働きについて				
第14回	メタボリックシンドロームについて				
第15回	運動療法について				
成績評価基準					
前期・後期に定期試験を実施する。60点未満は再試験を実施する。					
教科書					
中村隆一 斉藤宏 長崎浩 著：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版株式会社, 2012 適宜プリント配布					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科病院に従事した経験をもとに、スポーツ障害、成人病などの疾患に対する理学療法の考え方の講義を行う。					

授業科目名	運動学演習			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカヒコ 山本 圭彦
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	1	時間数	30
授業概要					
「解剖学」、「生理学」、「運動学」で修得した知識をもとに実験等を通して身体運動学に関する理解を深める。					
GIO (一般目標)					
「筋機能運」、「姿勢の知識」を深めることができる。					
SBO (行動目標)					
実験を通して科学的な思考を身に付ける					
授業回数	授業内容				
第1回	筋力：トルク、関節角度の特性、収縮形態、収縮速度				
第2回	筋力：筋力測定の方法の理解と実践				
第3回	筋力：実習1・2				
第4回	筋力：実習3・4				
第5回	筋活動：筋電図の概念と解析方法				
第6回	筋活動：実験1・2				
第7回	筋活動：実験3				
第8回	筋活動：実験4				
第9回	姿勢：静止姿勢の重心位置と重心位置の求め方				
第10回	姿勢：実験1・2				
第11回	姿勢：姿勢制御				
第12回	姿勢：姿勢制御 実験1・2				
第13回	生体力学：動作時における重心位置の求め方				
第14回	生体力学：実験1・2				
第15回	生体力学：実験1・2				
成績評価基準					
総合評価として後期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著：基礎運動学 第6版、2018					
石川 朗 種村留美 編集：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学実習、2016					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関（病院・クリニック）で勤務してきた。また一部、介護保険領域（通所ケア・訪問リハビリテーション）も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	基礎運動学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカ ヒコ 山本 圭彦
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
講義形式で開催する。 関節、筋、神経に関する解剖学や生理学を含め、身体運動に関する基礎的な知識を理解する。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・主要な関節や筋の構造がイメージできるようになること。 ・姿勢や歩行などの基本的な知識を理解する。 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・関節運動学に関して表現できるようになる ・運動学に関して興味を持ち、学習に対する意欲が向上する。 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	基本肢位・身体運動の面と軸・関節運動の名称			第16回	姿勢 (重心、重心線、立位姿勢の安定性)
第2回	生体力学の基礎 (てこ・力学)			第17回	姿勢 (姿勢の分類、安静立位姿勢と筋活動)
第3回	生体の構造と機能 (神経伝導と種類)			第18回	姿勢 (姿勢抑制、姿勢戦略)
第4回	関節の構造と分類			第19回	歩行 (歩行周期)
第5回	関節の構造と分類			第20回	歩行 (歩行時の関節運動)
第6回	関節運動の表現			第21回	肩関節 (関節の種類、肩鎖関節、胸鎖関節、靭帯)
第7回	骨格筋の構造と筋収縮			第22回	肩関節 (肩甲上腕関節、靭帯、肩甲骨運動)
第8回	骨格筋の構造と筋収縮			第23回	肩関節 (肩甲上腕リズム)
第9回	筋線維の種類			第24回	肘関節 (関節の種類、靭帯、アライメント)
第10回	運動単位			第25回	手関節 (関節の種類、母指)
第11回	筋の形態と運動。2関節筋			第26回	股関節 (骨盤、形態の指標、大腿骨形態、靭帯)
第12回	神経 (構造)			第27回	股関節 (股関節の動き)
第13回	神経 (基礎生理)			第28回	膝関節 (関節と靭帯)
第14回	神経 (伸張反射・神経の種類)			第29回	膝関節 (膝関節の動き)、足関節 (関節と靭帯)
第15回	神経 (伸張反射・1b抑制)			第30回	足関節 (関節と靭帯、足のアーチ)
成績評価基準					
総合評価として期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
中村隆一 斉藤宏 長崎浩 著:基礎運動学 第6版、2018					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関 (病院・クリニック) で勤務してきた。また一部、介護保険領域 (通所ケア・訪問リハビリテーション) も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	人間発達学			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
理学療法士として、小児疾患の理学療法治療を学ぶために必要な子どもの正常発達の知識を学習する。					
GIO (一般目標)					
人間の生涯に渡る身体的発達、認知的発達、社会的発達、運動発達について学び、各発達との関連性を習得する。					
SBO (行動目標)					
発達理論による生涯発達の把握し、正常な発達段階と特徴を原始反射・姿勢反応と関係づけて説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	総論 (発達の要因、発達理論)				
第2回	反射				
第3回	反射				
第4回	反射				
第5回	運動発達・発達検査				
第6回	運動発達・発達検査				
第7回	運動発達・発達検査				
第8回	運動発達・発達検査				
第9回	乳児期の発達 (認知・言語・心理・社会性)				
第10回	乳児期の発達 (主な疾患とリハビリテーション)				
第11回	幼児期の前期・後期の発達 (心理・社会性)				
第12回	幼児期の前期・後期の発達 (主な疾患・障害とリハビリテーション)				
第13回	学童期の発達 (発達学的特徴)				
第14回	学童期の発達 (発達学的課題・主な疾患・障害とリハビリテーション)				
第15回	青年期の発達(発達学的特徴)				
成績評価基準					
筆記試験 100%					
教科書					
南江堂： シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期リハ、外来リハ、訪問リハ等の分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かし、講義を行う。					

授業科目名	リハビリテーション概論			(フリガナ) 担当教員名	イシカワ シンジ イシハラ ナオキ クリバヤシ カズキ 石川 慎二・石原 直樹・栗林 一樹
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
リハビリテーションの理念(自立支援・就労支援等含む)、社会保障論、地域包括ケアシステムの理解と、それに関するセラピストの役割や他職種連携について理解する。					
GIO (一般目標)					
リハビリテーションの言葉の意味を理解するとともに、臨床の場での実践的なリハビリテーションを理解すること。					
SBO (行動目標)					
1. リハビリテーションとは何かを理解する 2. 日本における社会保障制度について理解する 3. 地域包括ケアシステムの理解と他職種連携(チームアプローチ)について理解する 4. 地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う					
授業回数	授業内容				
第1回	リハビリテーションの理念、リハビリテーション医療の流れの理解 (石川)				
第2回	理学療法とは(石原)				
第3回	言語聴覚療法とは(栗林)				
第4回	作業療法とは				
第5回	健康と障害の概念と分類の理解(ICIDH と ICF)				
第6回	障害の心理的・社会的視点の理解				
第7回	リハビリテーションの過程の理解				
第8回	リハビリテーションの諸段階の理解				
第9回	他職種連携(チームアプローチ)の理解				
第10回	リハビリテーションとの関連の深い関連職種の理解				
第11回	ADL,QOLの概念と評価法の理解				
第12回	地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケアの理解				
第13回	リハビリテーションを支える医療・社会保障制度の理解				
第14回	倫理とは、医の倫理				
第15回	各専門職における倫理規定				
成績評価基準					
筆記100%					
教科書					
上好 昭孝,土肥 信之 編著：医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版;永井書店					
参考書					
実務経験に関する内容					
石川：医療機関で実践経験のある作業療法士が、リハビリテーションの基本的内容を講義する。 石原：維持期に臨床経験のある理学療法士が、理学療法士の役割等について教示する。 栗林：急性期や回復期リハ、生活期リハ等において言語聴覚療法の臨床経験を持つ教員が講義する。					

授業科目名	理学療法概論			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ チ トシ 涸上 千年
開講学年	1年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義及び演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
理学療法士の業務及び関連法規について学び、理学療法の歴史および他国の理学療法の概要を理解する。					
GIO (一般目標)					
理学療法士の業務内容等の基礎的事項を理解する。また、地域包括ケアシステムなど、これから理学療法士に求められる使命を認識する。					
SBO (行動目標)					
理学療法士としての志を抱き、それに向かって具体的行動(理学療法を駆使して取り組む治療や持つべき資質)を考える。					
授業回数	授業内容				
第1回	理学療法の定義および歴史				
第2回	理学療法士の関連法規(理学療法士法および作業療法士法)				
第3回	理学療法士の職域と労働対価(名称独占・業務独占)				
第4回	職能団体と協働職種				
第5回	理学療法士の卒前・卒後教育(国民皆保険、診療報酬、介護報酬、地域包括ケア)				
第6回	世界理学療法連盟				
第7回	各国の理学療法				
第8回	日本の理学療法の課題(再考)				
第9回	国際疾病分類(ICD)と国際障害分類(ICIDH)				
第10回	国際生活機能分類(ICF)				
第11回	理学療法評価				
第12回	理学療法評価に基づいた治療実施				
第13回	理学療法における治療				
第14回	理学療法士に求められる要素				
第15回	理学療法士としての志				
成績評価基準					
筆記テスト80%					
取り組み姿勢20%(出席)					
教科書					
編集 庄本康治: PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論。羊土社					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療・福祉に従事した経験を持つ理学療法士が実際の経験をもとに講義・演習を行う。					

授業科目名	基礎理学療法評価学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	1年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
理学療法評価は、理学療法を提供する上で根幹となります。評価方法を覚えるだけでなく、その目的についても理解し、説明できるようになりましょう。					
GIO (一般目標)					
理学療法評価の基本的な方法を習得する。					
SBO (行動目標)					
各評価項目の目的・方法を説明し、実施することができる。					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	総論		第16回	関節可動域測定 (復習)	
第2回	一般的評価項目		第17回	関節可動域測定 (頸部)	
第3回	バイタルサイン		第18回	関節可動域測定 (胸腰部)	
第4回	形態測定 (総論)		第19回	関節可動域測定 (復習)	
第5回	形態測定 (周径)		第20回	関節可動域測定 (股関節)	
第6回	形態測定 (肢長)		第21回	関節可動域測定 (膝関節)	
第7回	形態測定 (まとめ)		第22回	関節可動域測定 (足関節・足部)	
第8回	関節可動域測定 (総論)		第23回	関節可動域測定 (まとめ)	
第9回	関節可動域測定 (肩甲帯)		第24回	関節可動域測定 (まとめ)	
第10回	関節可動域測定 (肩)		第25回	疼痛検査	
第11回	関節可動域測定 (肩)		第26回	知覚検査	
第12回	関節可動域測定 (肘・前腕)		第27回	知覚検査	
第13回	関節可動域測定 (手関節)		第28回	反射	
第14回	関節可動域測定 (手指)		第29回	反射	
第15回	関節可動域測定 (まとめ)		第30回	統合と解釈	
成績評価基準					
前期、後期にそれぞれ筆記試験・実技試験を実施する。それぞれ60点未満の場合は、再試験を実施する。成績評価は前期・後期の結果を総合的に判断する。					
教科書					
松澤正 江口勝彦 著：理学療法評価学.金原出版株式会社					
参考書					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	臨床見学実習			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ 中牟田 ヒロノリ 祐典
開講学年	1年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	1	時間数	45
授業概要					
臨床でなければ学ぶことのできない対象者への対応、および他職員との人間関係を学習する場です。将来、目指す職業を見学を通して経験する。					
GIO (一般目標)					
実習生が臨床実習指導者のもとに、理学療法における実際の臨場感のある現場において、主に見学と通じて保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高めることである。					
SBO (行動目標)					
職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる、誠実で協調性のある、良い人間関係を作ることが出来る。					
授業回数	授業内容				
	臨床実習施設での見学実習 40時間 見学実習事前・事後に関するセミナー及び評価 5時間				
成績評価基準					
臨床見学実習評価表 (100%)					
教科書					
教科書指定なし					
参考書					
指定なし					
実務経験に関する内容					
保健・医療・福祉など、臨床現場における理学療法士の指導の元、対象者への評価・治療などを見学を通して実習を行う。					

2年次

開講科目

授業科目名	ボランティア論			(フリガナ) 担当教員名	ナガハタ ミノル 長畑 実
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
近年盛んになりつつあるボランティア活動の歴史、意義を理解するとともに、持続可能な地域共生社会の実現に果たす役割、可能性について学習する。					
GIO (一般目標)					
主体的な判断と行動力を培い、生命倫理、人の尊厳を幅広く理解する。					
SBO (行動目標)					
ボランティア活動の社会的意義を理解し、主体的に参画する意欲を持つ。					
授業回数	授業内容				
第1回	ボランティア活動の理念と歴史①				
第2回	ボランティア活動の理念と歴史②				
第3回	ボランティア活動の理念と歴史③				
第4回	ボランティア活動の理念と歴史④				
第5回	ボランティア活動の理念と歴史⑤				
第6回	ボランティア活動の実際①				
第7回	ボランティア活動の実際②				
第8回	ボランティア活動の実際③				
第9回	ボランティア活動の実際④				
第10回	ボランティア活動の実際⑤				
第11回	地域のボランティア活動				
第12回	教育とボランティア				
第13回	まちづくりとボランティア				
第14回	ボランティアマネジメント				
第15回	まとめとふりかえり：ボランティアの可能性と展望				
成績評価基準					
課題レポート80%					
授業内コミュニケーションペーパー20%					
教科書					
適宜プリント配布					
適宜視聴覚教材を使用					
参考書					
「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会					
実務経験に関する内容					

授業科目名	体表解剖学			(フリガナ) 担当教員名	キッカワ 吉川	コウジロウ 幸次郎
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修	
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60	
授業概要						
触診を中心に実技を主とした授業。1年時の解剖学の復習も行う。						
GIO (一般目標)						
実技を通じて1年時の解剖学の知識を立体的にイメージできるようにする。						
SBO (行動目標)						
実技中に不明な点があれば積極的に確認すること。主体的に授業に参加すること。						
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容	
第1回	骨 : 上肢帯			第16回	骨 : 骨盤	
第2回	骨 : 上腕骨			第17回	骨 : 大腿骨	
第3回	筋 : 上肢帯の筋			第18回	筋 : 骨盤帯の筋	
第4回	筋 : 上肢帯の筋			第19回	筋 : 骨盤帯の筋	
第5回	骨 : 前腕骨			第20回	筋 : 骨盤帯の筋	
第6回	筋 : 上腕の筋			第21回	骨 : 下腿骨	
第7回	骨 : 上腕の筋			第22回	筋 : 大腿部の筋	
第8回	筋 : 手根骨と指骨			第23回	筋 : 大腿部の筋	
第9回	筋 : 前腕の筋			第24回	骨 : 足根骨・指骨	
第10回	筋 : 前腕の筋			第25回	筋 : 下腿部の筋	
第11回	靭帯 : 肩甲帯・肩関節			第26回	靭帯 : 骨盤・大腿・下腿部の靭帯	
第12回	靭帯 : 肘関節に関わる靭帯			第27回	靭帯 : 足部の靭帯	
第13回	神経 : 上肢の神経			第28回	神経 : 下肢の神経	
第14回	血管 : 上肢の血管			第29回	血管 : 下肢の血管	
第15回	まとめ			第30回	まとめ	
成績評価基準						
実技50% 筆記50%						
教科書						
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版, MEDICALVIEW, 2012 (前期)						
運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢 改訂第2版, MEDICALVIEW, 2012 (後期)						
参考書						
実務経験に関する内容						
介護老人保健施設にて実務に従事						

授業科目名	運動生理学			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ チ トシ 洲上 千年
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義及び演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
理学療法を実施するうえで極めて重要な運動に対する生理反応と運動を継続するメカニズムについて学習するもの					
GIO (一般目標)					
運動による生理反応および運動を継続するメカニズムについて理解する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・運動による呼吸・循環・代謝の変化について説明できる。 ・運動を継続するうえで必要となる運動耐容能について説明できる。 					
授業回数	授業内容				
第1回	筋収縮とエネルギー供給				
第2回	ガス(空気)交換の運動生理学				
第3回	重力・運動に対する循環反応				
第4回	体温と体熱バランス(体温調節と外部環境)				
第5回	内分泌の運動生理学(ホルモン)				
第6回	トレーニングの効果(体力・筋力・持久力)				
第7回	各種フィールドテスト				
第8回	筋機能・関節障害と運動				
第9回	呼吸機能障害と運動(呼吸不全と運動制限)				
第10回	心機能障害と運動				
第11回	抹消動脈障害と運動(抹消動脈疾患、深部動脈血栓)				
第12回	代謝疾患と運動(糖尿病、肥満・メタボリックシンドローム)				
第13回	骨粗鬆症と運動				
第14回	腎機能障害と運動(心腎連関)				
第15回	加齢と運動(老年症候群)				
成績評価基準					
筆記テスト	90%				
取り組み姿勢	10%(出席)				
教科書					
編集 解良武士:リハビリテーション運動生理学. メジカルビュー社					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療・福祉に従事した経験を持ち、心臓リハビリテーション指導士認定を取得している理学療法士が講義・演習を行う。					

授業科目名	関節運動学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカヒコ 山本 圭彦
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
<p>講義形式で開催する。</p> <p>四肢の関節や脊椎の関節に関して詳しい運動学を学びます。また、筋機能に関して1年時の内容を更に詳しく学習します。</p>					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・運動療法に応用できるようになる ・動作分析に応用できるようになる 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・主要な関節や筋の構造がイメージできるようになること。 ・関節運動と筋機能を合わせて考えることが習得できる 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	骨運動、関節包内運動			第16回	股関節
第2回	筋と腱：力の発生装置、等尺性筋力、力の調節：力-速度関係の概説			第17回	股関節
第3回	肩関節複合体：骨、関節構造、胸鎖関節			第18回	股関節
第4回	肩関節複合体：胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲胸郭関節			第19回	膝関節
第5回	肩関節複合体：肩甲上腕関節			第20回	膝関節
第6回	肩関節複合体：肩甲上腕リズム、筋の作用			第21回	膝関節
第7回	肩関節複合体：筋の作用、インピンジメント症候群			第22回	膝関節
第8回	肩関節障害			第23回	膝関節
第9回	肘関節と前腕：関節構造、TFCC			第24回	足関節
第10回	肘関節と前腕：関節包内運動、筋			第25回	足関節
第11回	肘関節と前腕：筋			第26回	足関節
第12回	手根・手関節：関節構造			第27回	足関節
第13回	手根・手関節：筋			第28回	脊柱
第14回	手指：関節構造、筋			第29回	脊柱
第15回	手指：運動学、筋			第30回	脊柱
成績評価基準					
総合評価として期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
Donald A. Neumann 著：筋骨格系のキネシオロジー 第3版、2018					
ヒントレ研究所：PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関（病院・クリニック）で勤務してきた。また一部、介護保険領域（通所ケア・訪問リハビリテーション）も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	臨床心理学			(フリガナ) 担当教員名	タケダ ミオ 武田 未央
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
臨床心理学の全体像を体系的に概説し、臨床実践の方法については実習を行う。					
GIO (一般目標)					
リハビリテーションの臨床において必要な心理的基礎力や対人援助職の基本的姿勢を培う。					
SBO (行動目標)					
①患者様と信頼関係を築く姿勢を身につけ、模擬的に実施できる。 ②患者様の心理状況を理解できるように、心の問題に関する基礎的内容を説明できる。 ③各々の検査法について理解し、目的や特徴などの説明ができる。					
授業回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	臨床心理学とは何か：歴史と構造				
第3回	問題を理解する（アセスメント）（1）目的と方法				
第4回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法①				
第5回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法②				
第6回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法③				
第7回	問題を理解する（アセスメント）（2）データの収集技法④				
第8回	問題を理解する（アセスメント）（3）異常心理学				
第9回	問題を理解する（アセスメント）（4）ライフサイクルと心理的問題				
第10回	問題を理解する（アセスメント）（5）発達過程と生じる障害や問題				
第11回	問題に介入する（1）理論モデル①				
第12回	問題に介入する（1）理論モデル②				
第13回	問題に介入する（1）理論モデル③				
第14回	問題に介入する（2）介入技法①個人				
第15回	問題に介入する（2）介入技法②集団				
成績評価基準					
評価方法：定期試験（後期）の成績と授業参加状況を総合して評価する。 割合：試験成績と授業参加状況の割合は7：3。 基準：試験は国家試験の過去問を中心とした選択および記述問題において正答率6割以上、 授業参加は主体性と積極性が認められること。					
教科書					
下山晴彦 編，2009「よくわかる臨床心理学 [改定新版]」 ミネルヴァ書房					
参考書					
下山晴彦・石丸径一郎，2020「公認心理師スタンダードテキストシリーズ③臨床心理学概論」ミネルヴァ書房 野島一彦・岡村達也 編，2018「公認心理師の基礎と実践③臨床心理学概論」遠見書房 倉光修，2020「臨床心理学概論」放送大学教育振興会					
実務経験に関する内容					
公認心理師、臨床心理士の資格をもつ講師が、医療機関における心理検査や相談に携わるなか、アセスメントの方法や介入に関するモデル等、実践的な教育を行う。					

授業科目名	病理学			(フリガナ) 担当教員名	オハラ ヒロキ 大原 浩貴
開講学年	2年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	1	時間数	15
授業概要					
病理学総論を通じて、病気の原因やなりたちを学ぶ。					
GIO (一般目標)					
解剖・生理と併せ、基本的な病気のなりたちを理解する。					
SBO (行動目標)					
細胞・組織の障害、循環障害、炎症、感染症、遺伝子異常など臓器の違いを問わない病因について理解し、説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	病理学で学ぶこと, 細胞・組織の障害と修復				
第2回	循環障害(1)				
第3回	循環障害(2)				
第4回	炎症と免疫				
第5回	感染症				
第6回	代謝障害				
第7回	先天異常と遺伝子異常				
第8回	腫瘍				
成績評価基準					
試験 100%					
教科書					
大橋健一ら：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進[1] 第5版 医学書院					
参考書					
坂井建雄/岡田隆夫：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 第10版 医学書院					
実務経験に関する内容					
病理学講座病態病理学講師により、病理学総論を通じて、病気の原因やなりたちについて教育する。					

授業科目名	内科学			(フリガナ) 担当教員名	長坂 行博 澄川 学・井上 貴雄 大内 武・高瀬 裕史・青木 耕
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
予防医学的観点から、リハビリテーション医療、さらに各人の健康生活の基礎となる医学的知識を共に学びます。(長坂) 講義を聴いて、少しでも循環器に対する抵抗感がやわらげられると思います。(大内)					
GIO (一般目標)					
疾病および障害の理解 (井上) セラピストに必要な循環器学および今後の予防医学的とりくみについて理解する。(大内)					
SBO (行動目標)					
基本的な内科疾患およびその治療方法について説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	生命誕生の奇跡 ~生命を守るしくみ ①自律神経				担当：長坂先生
第2回	生命誕生の奇跡 ~生命を守るしくみ ②免疫				
第3回	栄養学の基礎知識 ①3大栄養素(糖質、脂質、タンパク質)				
第4回	栄養学の基礎知識 ②ビタミン、ミネラル、ファイトケミカル等				
第5回	脳の働きについて				
第6回	認知症について				
第7回	心臓の働きについて				
第8回	ストレスの本質と対応について				
第9回	ガンについて				
第10回	糖尿病について				
第11回	動脈硬化症について				
第12回	健やかに老いるために				
第13回	肝・胆・膵 総論：解剖・生理・生化学				
第14回	肝炎・肝硬変・肝癌・				担当：澄川先生
第15回	胆石・胆道癌：急性・慢性膵炎・膵癌				担当：澄川先生
第16回	病態と治療				担当：澄川先生
第17回	アレルギー疾患と免疫				担当：井上先生
第18回	膠原病総論				担当：井上先生
第19回	膠原病各論				担当：井上先生
第20回	循環器 P63~85				担当：大内先生
第21回	循環器 残り				担当：大内先生
第22回	糖尿病				担当：高瀬先生
第23回	B型肝炎				担当：青木先生
第24回					
第25回					
第26回					
第27回					
第28回					
第29回					
第30回					
成績評価基準					
出席および筆記試験：長坂 出席(20%)、筆記試験(80%)：大内					
教科書					
各回のプリントを配布し、テキストとさせていただきます(長坂) 伊東進、森博愛 編著：メディカルスタッフのための内科学 第4版；医学出版社 資料を提出、講義中に利用(澄川)					
参考書					
山口和克 監修：新版 病気の地図帳，講談社					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格(内科、循環器、消化器、産科、外科等)をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	老年学			(フリガナ) 担当教員名	キ タニ ミツ ヒロ マツ イ リュウ キチ 木谷 光博・松井 龍吉
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
GIO (一般目標)					
SBO (行動目標)					
授業回数	授業内容				
第1回	加齢に伴う変化：生理機能				
第2回	加齢に伴う変化：運動・精神機能				
第3回	老年症候群				
第4回	循環器疾患・呼吸疾患				
第5回	神経・精神疾患				
第6回	骨・運動器疾患				
第7回	消化器・内分泌疾患				
第8回	腎・泌尿器疾患				
成績評価基準					
筆記試験 (100%) : 出席2/3以上の場合					
教科書					
佐々木 英忠・鳥羽 研二・荒井 啓行 著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（認知症、脳卒中、産業）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	整形外科学			(フリガナ) 担当教員名	オオツカ テツヤ ヨネイ トオル オガワ シンヤ 大塚 哲也・米井 徹・小川 慎也 カミ ムラ アツシ カキマル ヒロユキ 上村 篤史・柿丸 裕之
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
緊急手術・学会等の都合により講義担当者が急に変更となる場合があります。 講義ノートは各講義担当医師ごとに作成してください。					
GIO (一般目標)					
整形外科の基本的な知識を学習する。					
SBO (行動目標)					
授業回数	授業内容				
第1回	肩関節とその周辺の外傷・障害				担当：上村先生
第2回	骨系統疾患・骨端症及び壊死				担当：小川先生
第3回	整形外科疾患の検査と評価				担当：米井先生
第4回	リウマチ性疾患・骨・軟部腫瘍				担当：小川先生
第5回	末梢神経損傷				担当：上村先生
第6回	四肢循環障害				担当：小川先生
第7回	代謝・内分泌疾患・感染症				担当：米井先生
第8回	整形外科総論				担当：柿丸先生
第9回	整形外科的診断学 ①				担当：柿丸先生
第10回	整形外科的診断学 ②				担当：柿丸先生
第11回	整形外科的治療法 ①				担当：柿丸先生
第12回	整形外科的治療法 ②				担当：柿丸先生
第13回	整形外科とリハビリテーション ①				担当：柿丸先生
第14回	整形外科とリハビリテーション ②				担当：柿丸先生
第15回	まとめ				担当：柿丸先生
第16回	変形性股関節症				担当：上村先生
第17回	先天性股関節脱臼・ペルテス病				担当：上村先生
第18回	大腿骨頸部骨折				担当：米井先生
第19回	大腿部疾患				担当：米井先生
第20回	関節について				担当：大塚先生
第21回	肘・手関節				担当：小川先生
第22回	脊椎疾患・頸椎				担当：柿丸先生
第23回	脊椎疾患・腰椎				担当：柿丸先生
第24回	骨粗鬆症				担当：柿丸先生
第25回	膝関節疾患 (全身性疾患を含めて)				担当：柿丸先生
第26回	下腿・足関節・足趾				担当：柿丸先生
第27回	スポーツ外傷と障害 ①				担当：柿丸先生
第28回	スポーツ外傷と障害 ②				担当：柿丸先生
第29回	まとめ				担当：柿丸先生
第30回					
成績評価基準					
定期試験					
その他					
教科書					
加倉井周一他編：PT、OTのための整形外科 運動器疾患とリハビリテーション；医歯薬出版					
参考書					
二瓶 隆一・木村 哲彦 編：整形外科学テキスト (改訂第2版)；南江堂					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格 (日本整形外科学会専門医、認定リウマチ医、認定スポーツ医、認定脊椎脊髄病医、運動期リハビリテーション認定医、骨粗鬆症学会認定医) をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	神経内科学			(フリガナ) 担当教員名	キ タニ ミツ ヒロ マツ イ リュウ キチ 木谷 光博・松井 龍吉
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
GIO (一般目標)					
SBO (行動目標)					
①神経疾患観察のための解剖学的・生理学的基礎知識を修得する。 ②主な神経疾患の診察方法や検査方法を学ぶ。					
授業回数	授業内容				
第1回	感染性疾患				
第2回	CVD (脳血管障害)				
第3回	CVD (脳血管障害)				
第4回	CVD (脳血管障害)				
第5回	中枢神経系の解剖と機能				
第6回	神経学的診断と評価				
第7回	神経学的検査法				
第8回	意識障害、脳死、植物状態 頭痛、めまい、失神				
第9回	末梢神経障害				
第10回	認知症				
第11回	変性疾患・脱髄疾患、錐体外路の変性疾患				
第12回	筋疾患				
第13回	脳神経外科領域の疾患				
第14回	脳腫瘍				
第15回	外傷性脳損傷				
成績評価基準					
テスト					
教科書					
川平 和美編著：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版. 医学書院, 2009					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。各専門分野の認定医資格（認知症、脳卒中、産産）をもつ医師が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	中枢神経障害学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義および演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
中枢神経疾患の中でも、脳血管障害についての理解を深めるもの。					
GIO (一般目標)					
脳血管障害の概要と回復過程について理解する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・脳の解剖や機能の理解を深め、説明できる ・脳血管障害の疫学、予後、病因、症候について説明できる 					
授業回数	授業内容				
第1回	脳の解剖と機能 (全体像、大脳)				
第2回	脳の解剖と機能 (大脳基底核、視床)				
第3回	脳の解剖と機能 (脳幹、小脳)				
第4回	脳の血管 (解剖と灌流域)				
第5回	脳解剖と正常画像				
第6回	脳血管障害の疫学、予後、病因				
第7回	脳血管障害の症候 (被殻出血、視床出血)				
第8回	脳血管障害の症候 (皮質下出血、小脳出血、脳幹出血)				
第9回	塞栓症・血栓症と脳梗塞、一過性脳虚血発作				
第10回	脳血管障害の内科的・外科的治療				
第11回	くも膜下出血の治療と理学療法				
第12回	発症後のリスクとリスク管理				
第13回	廃用症候群、合併症の種類と予防				
第14回	脳血管障害の画像所見				
第15回	再発予防・機能維持				
成績評価基準					
筆記試験を実施する。60点に満たない場合は再試験を実施する。					
教科書					
久保俊一 安保雅博 編：脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト.医学書院. 坂井建雄 著：系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能.医学書院.					
参考書					
編集 医療情報科学研究所：病気がみえる 脳・神経 MEDIC MEDIA					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	小児科学			(フリガナ) 担当教員名	ナカ シマ マサ ヒロ アンドウ ユキ リ 中島 匡博・安藤 幸典
開講学年	2年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	時間数	15
授業概要					
小児は心身共に成長・発達過程にあり、社会の影響を大きく受けます。子どもを取り巻く環境にも関心を持つことを期待しています。					
GIO (一般目標)					
小児科学の成長・発達など、基礎的な事項を理解する。					
SBO (行動目標)					
授業回数	授業内容				
第1回	小児科学概論			担当：中島先生	
第2回	小児科学的症候・診断・治療			担当：中島先生	
第3回	免疫・アレルギー疾患			担当：中島先生	
第4回	子どもとメディア			担当：中島先生	
第5回	新生児・未熟児疾患・先天異常			担当：安藤先生	
第6回	神経疾患・筋疾患			担当：安藤先生	
第7回	小児の発育・発達			担当：安藤先生	
第8回	循環器・呼吸器・感染症			担当：安藤先生	
成績評価基準					
筆記試験					
教科書					
畠田豊 著、奈良勲・鎌倉矩子 監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学第5版 医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
本科目はオムニバスである。小児科専門医が、日々の臨床業務に携わるなか、様々な知見や模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。					

授業科目名	精神医学			(フリガナ) 担当教員名	石川 慎二 <small>イシカワ シンジ</small>
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
精神医学の基本的概要について、講義を中心に進行していきます。					
GIO (一般目標)					
精神医学の基本的概要について修得する。					
SBO (行動目標)					
1. 疾患論を通じ、疾患の説明ができる。 2. 精神障害の治療・リハビリテーションについて説明できる。 3. 精神医学に関連する課題や、医療・保健・福祉に関する状況と制度面について説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	精神医学の歴史及び精神障害の成因と分類について理解する				
第2回	精神機能の障害と精神症状について理解する				
第3回	精神障害の診断と評価について理解する				
第4回	認知症の治療・リハビリテーションについて理解する				
第5回	薬物依存症の治療・リハビリテーションについて理解する				
第6回	統合失調症の治療・リハビリテーションについて理解する				
第7回	気分障害の治療・リハビリテーションについて理解する				
第8回	神経症性障害の治療・リハビリテーションについて理解する				
第9回	成人のパーソナリティ・行動の障害について理解する				
第10回	精神遅滞、心理的発達障害の治療・リハビリテーションについて理解する				
第11回	精神障害の治療とリハビリテーション、薬物療法、精神療法について理解する				
第12回	リエゾン精神医学及び心身医学について理解する				
第13回	ライフサイクルにおける精神医学について理解する				
第14回	社会文化とメンタルヘルスについて理解する				
第15回	精神医学を取り巻く各種社会保障制度等について理解する。				
成績評価基準					
筆記試験100% (前期・後期ともに中間試験と期末試験を実施します)					
教科書					
奈良勲・鎌倉矩子 監修・上野武治 編集：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版；医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
精神科医療に携わった経験を持つ作業療法士が、我が国における精神科医療の実際や、精神疾患の特徴、治療・リハビリテーションについて講義を中心に説明する。					

授業科目名	リハビリテーション医学 (薬理・栄養含)			(フリガナ) 担当教員名	マ ニワソウキチ アオキ コウ ナカム タ ヒロノリ ヤマトケン 馬庭 壯吉・青木 耕・中牟田 祐典・山本 健 ニシノ ケンロウ ナホ 西園 憲郎・永戸 ゆうこ	
	開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60	
授業概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概要について理解し、障害に対するチームアプローチについて学ぶ。(馬庭) ・PT・OT・STで学ぶ疾患の概要を理解し、他職種が行う治療について習得する。 ・臨床現場でリハ職にも薬剤の知識が必要であるため基礎的な項目を身につけてもらう(西園) ・リハビリテーションを行う上で必要な栄養学の基礎知識や栄養療法について学ぶ。(永戸) 						
GIO (一般目標)						
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生から3年生にかけて学ぶ疾患の基礎となる知識・技術の全体像を習得する。 ・患者の服用薬剤をひととおり確認して、薬によって症状が改善されているか確認してリハビリに臨む(西園) ・リハビリテーションにおける栄養の必要性を理解し、栄養に関する知識を修得する。(永戸) 						
SBO (行動目標)						
<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の病態・医師の行う治療法を知り、その疾患に適応するPT・OT・STの治療の基礎を把握する。 ・薬剤の知識を身につけることで他職種とのコミュニケーションをとり専門職としての信頼を獲得する(西園) ・栄養学の基礎や栄養療法について説明できる。(永戸) ・健康管理やリハビリテーションにおける栄養の重要性について説明できる。(永戸) 						
授業回数	授業内容					
第1回	骨関節の外傷・疾患のリハビリテーション①					馬庭
第2回	骨関節の外傷・疾患のリハビリテーション②					
第3回	骨関節の外傷・疾患のリハビリテーション③					
第4回	脳血管障害の概念①					青木
第5回	脳血管障害の概念②					
第6回	脳血管障害のリハビリテーション①					
第7回	脳血管障害のリハビリテーション②					中牟田
第8回	内部障害 循環器疾患とリハビリテーション					
第9回	内部障害 呼吸器疾患とリハビリテーション					
第10回	内部障害 (糖尿病、高脂血症等) の疾患概念					山本健
第11回	内部障害 (糖尿病、高脂血症等) のリハビリテーション					
第12回	関節リウマチと膠原病の疾患概念					
第13回	関節リウマチのリハビリテーション					西園
第14回	神経筋疾患のリハビリテーション (ALS、SCDなど)					
第15回	神経筋疾患のリハビリテーション (PD、GBなど)					
第16回	なぜリハ職が薬剤について知らなければならないのか					永戸
第17回	第1章 整形外科疾患に使用される薬剤					
第18回	第2章 脳神経疾患に使用される薬剤					
第19回	" "					
第20回	第3章 呼吸・循環・消火器・代謝疾患に使用される薬剤					
第21回	第4章 生活習慣病に使用される薬剤					
第22回	第5章 高齢者に使用される薬剤についての注意点					
第23回	第6章 緩和・精神心理に使用される薬剤					
第24回	リハビリテーションに役立つ薬の知識の総まとめ					
第25回	リハビリテーションにおける栄養知識の重要性					
第26回	栄養素の役割と食事摂取基準					
第27回	ライフステージ別の栄養					
第28回	病態別の栄養療法					
第29回	疾患別の栄養療法①					
第30回	疾患別の栄養療法②					
成績評価基準						
定期試験100%						
教科書						
三上真弘 監修, 出江紳一・加賀谷齊 編集:リハビリテーション医学テキスト 改訂第4版. 南江堂, 2016 (馬庭) 藤原俊之 監修, 高橋哲也 編集:リスクに備えて臨床に活かす 理学療法にすぐ役立つ薬の知識. 医学書院 (西園) 配布資料 (永戸)						
参考書						
実務経験に関する内容						
本科目はオムニバスである。日本リハビリテーション医学会専門医による整形外科疾患に関する講義、薬剤師および管理栄養士、PT、OT、STによりリハビリテーションに関連する薬剤や栄養について実践的な教育を行う。						

授業科目名	画像診断学			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ 中牟田 祐典 ヒロノリ
開講学年	2年	開講学期	通年	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
臨床では読影が必要になります。様々な画像を診て症状が予測できるように行っていきます。					
GIO（一般目標）					
脳梗塞／脳出血の画像を理解し説明できる。 骨折の画像を理解し説明できる。					
SBO（行動目標）					
CT・MRI・単純レントゲンの特徴を説明できる。 解剖と画像をリンクしてイメージできる。					
授業回数	授業内容				
第1回	脳血管の基本解剖／頭部の正常像				
第2回	一過性脳虚血発作・脳梗塞				
第3回	脳内出血／くも膜下出血・もやもや病				
第4回	頭部外傷総論／脊髄小脳変性症				
第5回	レビー小体型認知症／認知症／特発性正常圧水頭症				
第6回	呼吸器・循環器の正常と異常				
第7回	呼吸器・循環器の正常と異常				
第8回	脊椎の正常と異常①				
第9回	脊椎の正常と異常②				
第10回	肩関節の正常と異常				
第11回	肘関節の正常と異常				
第12回	手関節の正常と異常				
第13回	股関節の正常と異常				
第14回	膝関節の正常と異常				
第15回	足関節の正常と異常				
成績評価基準					
筆記試験を実施する。60点未満は再試験を行う。					
教科書					
監修 山下敏彦 下濱 俊：PT・OTのための画像のみかた 第2版 金原出版株式会社、2019 解剖学で使用した教科書					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科病院に従事した経験をもとに、レントゲン・MRI・CTの画像診断の方法等の講義を行う。					

授業科目名	救命医学			(フリガナ) 担当教員名	クリハラ 栗原 ケン ジロウ 健司郎
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・実習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
高度化する医療ニーズに対応するためAEDの使用や人工呼吸等の基礎知識、技術を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
安全管理学、救急医療学を学ぶことでリスク管理を徹底できるようになる。 上級救命講習終了証を取得する。					
SBO (行動目標)					
①手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得できる。 ②臨床実習に必要な安全管理や組織連携に関する基本的知識を習得できる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	救急医療学総論①			第9回	安全管理学総論
第2回	救急医療学総論②			第10回	医療・介護施設での安全管理①
第3回	救急医療学総論③			第11回	医療・介護施設での安全管理②
第4回	救命技術 (外部)			第12回	医療・介護施設での安全管理③
第5回	救命技術 (外部)			第13回	感染症に対する安全管理①
第6回	救命技術 (外部)			第14回	感染症に対する安全管理②
第7回	救命技術 (外部)			第15回	安全管理を高める連携と教育
第8回	救命技術 (外部)				
成績評価基準					
前期 レポート100%					
後期 定期試験100%					
教科書					
内山 靖・藤井浩美・立石雅子 編：リハベーシック 安全管理学・救急医療学，医歯薬出版株式会社，2021					
参考書					
実務経験に関する内容					
救急救命士による救命講習 (座学・実技) を行い、保健・医療・福祉の現場における実践的な教育を行う。 栗原：病院や訪問にて、精神科領域における作業療法の実践を行ってきた。					

授業科目名	理学療法評価演習			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ 中牟田	ヒロノリ 祐典・三宅	ミヤケ 綾子	アヤコ
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修			
授業形態	演習	単位数	2	時間数	60			
授業概要								
理学療法士が実施する理学療法評価について、機能低下と検査測定内容を関連付け、実際に検査測定が実施できるように演習を行う。								
GIO (一般目標)								
理学療法士が実施する機能低下を把握するための検査測定を身に着ける。								
SBO (行動目標)								
各理学療法評価の方法について、関連要因を把握し実施できるようになる。								
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容			
第1回	オリエンテーション、病的反射			第16回	整形外科疾患検査			
第2回	筋力測定(総論) MMT(頭頸部)			第17回	整形外科疾患検査			
第3回	MMT(頭頸部、体幹)			第18回	脳神経検査			
第4回	MMT(小テスト・実技確認)			第19回	脳神経検査			
第5回	MMT(肩甲帯)			第20回	高次脳機能検査			
第6回	MMT(肩)			第21回	高次脳機能検査			
第7回	MMT(肘・前腕・手関節)			第22回	協調性検査			
第8回	MMT(手指)			第23回	筋トーヌス検査			
第9回	MMT(小テスト・実技確認)			第24回	運動発達検査			
第10回	MMT(股関節)			第25回	姿勢反射検査			
第11回	MMT(膝、足関節)			第26回	姿勢反射検査			
第12回	MMT(顔面、その他)			第27回	ADL検査			
第13回	MMT(小テスト、実技確認)			第28回	動作観察			
第14回	片麻痺運動機能検査			第29回	動作観察			
第15回	片麻痺運動機能検査			第30回	まとめ			
成績評価基準								
筆記試験・実技試験を実施する。それぞれ60点未満の場合は、再試験を実施する。								
前期・後期成績は筆記試験50%、実技試験50%とする。最終成績は前期と後期を総合的に判断する。								
教科書								
【前期】松澤正・江口勝彦 著：理学療法評価学.金原出版株式会社 津山直一・中村耕三(訳)：新・徒手筋力検査法.協同医書出版社								
【後期】松澤正・江口勝彦 著：理学療法評価学.金原出版株式会社 田崎義昭・斎藤佳雄(著)：ベッドサイドの神経の診かた.南江堂								
参考書								
実務経験に関する内容								
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。								

授業科目名	基礎運動療法			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
運動療法は、理学療法を提供するうえで、主軸となります。基礎的な学習を行いつつ、実技やグループ学習等も行ないます					
GIO (一般目標)					
運動療法の目的、対象、各種類の特性を理解する。					
SBO (行動目標)					
運動療法の各方法の定義、目的や方法を説明することができる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	関節可動域訓練の総論 (目的・意義)			第16回	筋力・筋持久力増強訓練
第2回	関節可動域の維持・改善			第17回	筋力・筋持久力増強訓練
第3回	関節可動域の維持・改善			第18回	筋力・筋持久力増強訓練
第4回	関節可動域の維持・改善			第19回	筋力・筋持久力増強訓練
第5回	関節可動域の維持・改善			第20回	筋力・筋持久力増強訓練(グループ発表)
第6回	関節可動域の維持・改善			第21回	協調性訓練(総論)
第7回	関節可動域訓練 (グループ演習：評価と治療)			第22回	協調性訓練
第8回	関節可動域訓練 (グループ発表)			第23回	協調性訓練
第9回	筋力・持久力増強訓練の総論 (目的・原則)			第24回	協調性訓練
第10回	筋力増強訓練			第25回	協調性訓練
第11回	筋力増強訓練			第26回	障害別の治療体操
第12回	筋力増強訓練			第27回	障害別の治療体操
第13回	筋力増強訓練 (グループ演習：評価と治療)			第28回	障害別の治療体操
第14回	姿勢保持改善に対する体操			第29回	障害別の治療体操
第15回	姿勢保持改善に対する体操			第30回	まとめ
成績評価基準					
定期試験 100%					
前期と後期の定期試験を総合し、成績処理を行う。					
教科書					
南江堂 シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期およびクリニックで臨床経験を実務経験のある理学療法士がその経験を活かし、運動療法の適応や方法について、講義および演習を行う。					

授業科目名	徒手療法			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	60
授業概要					
講義は、主に実技が主体となりますが、理解・習得するためには、筋・骨の解剖学・運動学の知識が大変重要です。予習と復習を行なっていきましょう。					
GIO (一般目標)					
IDストレッチ、関節モビライゼーションの基礎的な技術を身につける。					
SBO (行動目標)					
各筋・各関節に対して治療手技を説明・選択できる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	ストレッチの概念			第16回	股関節のストレッチ
第2回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第17回	股関節のストレッチ
第3回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第18回	股関節のストレッチ
第4回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第19回	膝関節のストレッチ
第5回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第20回	膝関節のストレッチ
第6回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第21回	膝関節のストレッチ
第7回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第22回	足関節のストレッチ
第8回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第23回	足関節のストレッチ
第9回	上肢・肩甲帯のストレッチ			第24回	股関節のモビライゼーション
第10回	関節モビライゼーションの概念			第25回	股関節のモビライゼーション
第11回	肩関節のモビライゼーション			第26回	股関節のモビライゼーション
第12回	肘関節のモビライゼーション			第27回	膝関節のモビライゼーション
第13回	肘関節のモビライゼーション			第28回	膝関節モビライゼーション
第14回	手関節のモビライゼーション			第29回	足関節モビライゼーション
第15回	手関節のモビライゼーション			第30回	足関節モビライゼーション
成績評価基準					
実技試験を実施する。60点未満となった場合は、再試験を実施する。 前期・後期の定期試験の結果を総合し、成績処理とする。					
教科書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三輪書店 IDストレッチング ・三輪書店 徒手理学療法 					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期および外来リハ、訪問リハ等において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かし、演習を行う。					

授業科目名	基礎物理療法			(フリガナ) 担当教員名	キッカワ 吉川 コウジロウ 幸次郎
開講学年	2年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
理学療法の3大治療の1つである物理療法について、物理的エネルギーがどのように治療として活用されているのか、学び実際に使用する。					
GIO (一般目標)					
物理療法のメカニズムや使用方法、適応・禁忌などの知識を習得する					
SBO (行動目標)					
物理療法の種類やメカニズム、使用方法、適応・禁忌について説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	物理療法の定義、分類				
第2回	物理療法の適応の多い病態の理解：炎症、組織修復、痛み				
第3回	温熱療法：定義・分類・基礎・生理学的作用				
第4回	温熱療法：ホットパック、パラフィン				
第5回	温熱療法：超短波、極超短波、超音波				
第6回	寒冷療法：定義・分類・基礎・生理学的作用・実際				
第7回	水治療法：定義・分類・基礎・生理学的作用・実際				
第8回	電気刺激療法：定義・分類・基礎・生理学的作用				
第9回	電気刺激療法：治療的電気刺激療法、機能的電気刺激療法				
第10回	電気刺激療法：経皮的末梢神経電気刺激療法、中周波・干渉波電気刺激療法				
第11回	電気診断：定義・分類・基礎・生理学的作用				
第12回	光線療法：定義・分類・基礎・生理学的作用				
第13回	光線療法：赤外線、紫外線、レーザー				
第14回	牽引療法：定義・分類・基礎・生理学的作用、実際				
第15回	圧迫療法、振動療法その他の療法				
成績評価基準					
筆記試験100%					
教科書					
網本 和 菅原 憲一 編集：標準理学療法学 物理療法学 第5版. 2020,医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
介護老親保健施設で物理療法を実施					

授業科目名	物理療法演習			(フリガナ) 担当教員名	キッカワ 吉川 コウジロウ 幸次郎
開講学年	2	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	1	時間数	30
授業概要					
前期の基礎物理療法の授業内容を踏まえて実習を行う。					
GIO (一般目標)					
適応・禁忌の理解を前提に対象者に治療を実施できる					
SBO (行動目標)					
実習の際に患者に治療を実施することを想定して説明を行いつつ治療を実施する。					
授業回数	授業内容				
第1回	電気刺激療法				
第2回	電気刺激療法				
第3回	電気刺激療法				
第4回	電気刺激療法				
第5回	水治療法				
第6回	水治療法				
第7回	電気診断				
第8回	電気診断				
第9回	牽引療法				
第10回	牽引療法				
第11回	温熱療法				
第12回	温熱療法				
第13回	温熱療法				
第14回	温熱療法				
第15回	まとめ				
成績評価基準					
課題、筆記試験、実技試験を総合的に評価する。					
教科書					
網本 和 菅原 憲一 編集：標準理学療法学 物理療法学 第5版. 2020,医学書院 (前期に購入済み)					
参考書					
実務経験に関する内容					
介護老人保健施設にて実務に従事					

授業科目名	臨床評価実習			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ ヒロノリ 中牟田 祐典
開講学年	2年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	2	時間数	90
授業概要					
評価学で学んだ技術を患者様に対して実施する。また施設の中での役割を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
対象者に対して適切に検査・測定が実施できる					
SBO (行動目標)					
対象者の状態に適した検査・測定が選択できる。対象者の状態を理解して安全性に配慮できる。得られた結果を正しく解釈できる					
授業回数	授業内容				
	実習施設での評価実習 90時間 * 臨床実習は45時間で1単位とします。				
成績評価基準					
臨床評価表を基に総合的に判断します。					
教科書					
指定なし					
参考書					
指定なし					
実務経験に関する内容					
保健・医療・福祉など、臨床現場における理学療法士の指導の元、対象者への評価を見学・共同参加・実施して学ぶ実習を行う。					

3年次

開講科目

授業科目名	社会保障学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義及び演習	単位数	2	時間数	30
授業概要					
リハビリテーションは関連する各制度のもとで行われる。制度の適切な適用を図るため、社会保障制度について学習するもの。					
GIO (一般目標)					
社会保障制度の概要と実際について理解する。自立支援・就労支援、社会保障制度や地域包括ケアシステムに関する理学療法士の役割を法的な観点から理解した上で、他の関係機関との連携の必要性について理解する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の種類を列挙し、概要を説明できる。 ・社会保障制度の歴史について述べる事ができる ・生活環境に関わる制度について説明できる ・保健、医療、福祉の動向と政策について説明できる 					
授業回数	授業内容				
第1回	私たちの暮らしと社会保障制度				
第2回	社会保障制度の概要 (種類・機能・役割)				
第3回	障害者総合支援法 (自立支援・就労支援含む)				
第4回	障害者総合支援法 (自立支援・就労支援含む)				
第5回	医療保健制度の概要と実際				
第6回	介護保険制度の概要				
第7回	介護保健制度の問題と動向				
第8回	地域包括ケアシステムの概要とリハビリテーション専門職の役割				
第9回	多職種連携				
第10回	年金制度・労災保険制度				
第11回	児童福祉法				
第12回	バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する法制度				
第13回	公衆衛生				
第14回	海外の社会福祉制度				
第15回	保健・医療・福祉の動向と今後の施策				
成績評価基準					
後期末に筆記試験を実施する。60点未満の場合は再試験を実施する。					
教科書					
福田康生 著:社会保障・社会福祉.医学書院					
参考書					
随時、資料を配布します					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	理学療法研究法			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカ ヒコ 山本 圭彦
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	4	時間数	60
授業概要					
研究に対する基本的な知識を学び、実際に研究活動を行う					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 研究に対する基本的な知識を学ぶ 実験や統計学的分析の方法を理解する 研究発表ができるようになる 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 研究に関して興味を持ち、探求心が養える 実際の臨床の場に出た際に分析する能力が向上する 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	研究手順の流れ			第16回	動作分析・解析
第2回	論文の種類と論文の読み方			第17回	動作分析・解析
第3回	研究の種類			第18回	動作分析・解析の解釈
第4回	尺度の種類			第19回	方法の記載方法
第5回	数値の種類			第20回	結果の記載方法
第6回	データ集計の方法			第21回	緒言の記載方法
第7回	統計学的分析方法			第22回	考察の記載方法
第8回	統計学的分析方法			第23回	デモ実験の作成
第9回	対象者の選定			第24回	プレゼンテーション方法
第10回	筋力を対象とした研究の実験方法			第25回	デモ実験の作成
第11回	筋力を対象とした研究の実験方法			第26回	デモ実験の作成
第12回	筋電図を用いた研究の実験方法			第27回	デモ実験の作成
第13回	筋電図を用いた研究の実験方法			第28回	デモ実験の作成
第14回	筋電図を用いた研究の実験の解釈			第29回	デモ実験の作成
第15回	筋電図を用いた研究の実験の解釈			第30回	発表
成績評価基準					
総合評価として期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
標準理学療法学 理学療法研究法 第3版 医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関（病院・クリニック）で勤務してきた。また一部、介護保険領域（通所ケア・訪問リハビリテーション）も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	理学療法管理運営論			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ 瀬上 千年
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
理学療法士として、社会人として働くために必要な医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育を学ぶ。					
GIO（一般目標）					
医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。					
SBO（行動目標）					
職業倫理について説明できる。 医療保険制度、介護保険制度を理解し説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	理学療法管理学とは				
第2回	理学療法士の職業倫理				
第3回	組織運営とマネジメント				
第4回	理学療法士の職場管理				
第5回	理学療法業務マネジメント（診療録、処方箋、インフォームドコンセント）				
第6回	教育・研究のマネジメント（ハラスメント対策）				
第7回	社会保障制度				
第8回	医療保険制度				
第9回	介護保険制度				
第10回	年金制度				
第11回	雇用制度				
第12回	疾患別リスクマネジメント				
第13回	急性期・回復期の理学療法マネジメント				
第14回	介護老人保健施設でのマネジメント				
第15回	生活期を支援する理学療法マネジメント				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
編著者代表 奈良勲 編著者 橋本 隆 浅井 仁 藤村昌彦：理学療法管理学，医歯薬出版株式会社，2018					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療・福祉に従事した経験を持ち、診療情報管理士認定を取得している理学療法士が講義を行う。					

授業科目名	疾患別理学療法演習			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカ ヒコ 山本 圭彦
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	60
授業概要					
レントゲン、MRI、CTなどの画像読影や各疾患に特徴的な評価を学びます。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 各疾患に必要な評価項目が列挙できる 結果の解釈ができるようになる 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 病態や症状、動作から問題点を推察できるようになる 推察した問題に対して適切な検査、測定ができるようになる 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	股関節疾患のレントゲン			第16回	体幹疾患に対する検査項目の考え方
第2回	膝関節疾患のレントゲン			第17回	体幹疾患に対する問題点の捉え方
第3回	足関節疾患のレントゲン			第18回	体幹疾患に対する問題点の捉え方
第4回	整形外科疾患のレントゲン総括			第19回	肩関節疾患に対する検査項目の考え方
第5回	各疾患に対する評価 概論			第20回	肩関節疾患に対する問題点の捉え方
第6回	整形外科テストの実際			第21回	肩関節疾患に対する問題点の捉え方
第7回	整形外科テストの実際			第22回	脳血管障害に対する検査項目の考え方
第8回	変形性関節症に対する検査項目の考え方			第23回	脳血管障害に対する問題点の捉え方
第9回	変形性関節症に対する問題点の捉え方			第24回	脳血管障害に対する問題点の捉え方
第10回	変形性関節症に対する問題点の捉え方			第25回	脳血管障害に対する問題点の捉え方
第11回	変形性関節症に対する問題点の捉え方			第26回	パーキンソン病に対する検査項目の考え方
第12回	THA・BHA・TKA後の検査項目の考え方			第27回	パーキンソン病に対する検査項目の考え方
第13回	THA・BHA・TKA後の問題点の捉え方			第28回	パーキンソン病に対する問題点の捉え方
第14回	THA・BHA・TKA後の問題点の捉え方			第29回	パーキンソン病に対する問題点の捉え方
第15回	THA・BHA・TKA後の問題点の捉え方			第30回	まとめ
成績評価基準					
総合評価として期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
理学療法 臨床実習とケーススタディ (医学書院)					
PT・OTのため画像のみかた					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関 (病院・クリニック) で勤務してきた。また一部、介護保険領域 (通所ケア・訪問リハビリテーション) も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	クリニカルリーズニング論			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ 中牟田	ヒロノリ 祐典
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修	
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60	
授業概要						
症例患者さんの疾患特徴や問題点の統合と解釈をディスカッションしながら行う。						
GIO (一般目標)						
疾患別、障害別理学療法の適用に関する知識と対象者の自立生活を支援していくために必要な知識や技術を修得し、課題解決能力を培う						
SBO (行動目標)						
症状と検査結果を関連付けて説明できる。						
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容	
第1回	イントロダクション			第16回	脳血管障害急性期 症例提示	
第2回	大腿骨転子部骨折 (課題提出あり)			第17回	脳血管障害急性期 統合と解釈	
第3回	大腿骨転子部骨折 症例紹介			第18回	脳血管障害急性期 統合と解釈	
第4回	大腿骨転子部骨折演習			第19回	脳血管障害回復期 症例提示	
第5回	大腿骨転子部骨折 (課題提出あり)			第20回	脳血管障害回復期 統合と解釈	
第6回	大腿骨転子部骨折 統合と解釈			第21回	脳血管障害回復期 統合と解釈	
第7回	変形性股関節症 (課題提出あり)			第22回	脳血管障害回復期 重度片麻痺	
第8回	変形性股関節症 症例紹介			第23回	脳血管障害回復期 重度片麻痺	
第9回	変形性股関節症 (課題提出あり)			第24回	脳血管障害回復期 重度片麻痺	
第10回	変形性股関節症 統合と解釈			第25回	進行期パーキンソン病 症例提示	
第11回	変形性股関節症演習			第26回	進行期パーキンソン病 統合と解釈	
第12回	変形性膝関節症 (課題提出あり)			第27回	進行期パーキンソン病 統合と解釈	
第13回	変形性膝関節症 症例紹介			第28回	ALS 症例提示	
第14回	変形性膝関節症 (課題提出あり)			第29回	ALS 統合と解釈	
第15回	変形性膝関節症 統合と解釈			第30回	ALS 統合と解釈	
成績評価基準						
課題提出60% (事前学習)、筆記試験40%の総合判定。総合判定で60%満たない場合は再試験を1回実施する。提出期限の遅れ・未提出は採点より除外する。						
教科書						
編集 豊田 輝: 症例動画でわかる 理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト, 羊土社, 2021						
参考書						
実務経験に関する内容						
急性期・回復期に従事した教員が、症例の動画を利用し実践的な思考過程を講義・演習で行う。						

授業科目名	動作分析学			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ 中牟田 祐典 ヒロノリ
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
理学療法分野で対象となることが多い基本的な動作の理解を深める。異常な歩行動作を理解することで、正常な歩行動作との差異を理解する。					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行や姿勢に関して詳細な知識を獲得する ・歩行時の関節運動と筋活動を深く理解する 					
SBO (行動目標)					
正常および異常な歩行観察と分析ができるようになる					
<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢観察や動作観察ができるようになる 					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	歩行の概要①			第16回	背臥位
第2回	歩行の概要②			第17回	寝返り①
第3回	歩行周期総論①			第18回	寝返り②
第4回	歩行を可能にするメカニズム①			第19回	起き上がり①
第5回	歩行を可能にするメカニズム②			第20回	起き上がり②
第6回	目視による動作観察①			第21回	坐位
第7回	目視による動作観察②			第22回	立ち上がり①
第8回	目視による動作観察③			第23回	立ち上がり②
第9回	歩行観察①			第24回	立位
第10回	歩行観察②			第25回	片麻痺を有する動作①
第11回	歩行観察③			第26回	片麻痺を有する動作②
第12回	歩行観察④			第27回	片麻痺を有する動作③
第13回	姿勢動作観察①			第28回	パーキンソニズムを有する動作
第14回	姿勢動作観察②			第29回	運動失調症の動作
第15回	姿勢動作観察③			第30回	変形性膝関節症の動作
成績評価基準					
期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床詩論の実践。MEDICALVIEW, 2020 隈元庸夫：症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作。Human press. 2017					
参考書					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期に従事した教員が、症例の動画を利用し実践的な思考過程を講義・演習で行う。					

授業科目名	ADL論			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	前期	必修／選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
ADLの基本的な知識を学び、各疾患ごとのADL評価と機器の選択を理解する。異常動作に対して推論を行っていく。					
GIO（一般目標）					
各ADL評価を理解し、また動作分析の方法を理解する。					
SBO（行動目標）					
各ADL評価の特徴を説明でき、また基本動作の各メカニズムについて説明することができる。					
授業回数	授業内容				
第1回	ADLの総論（概念、目的、意義）				
第2回	ADLとQOL、ADL評価の種類や目的				
第3回	ADL評価①				
第4回	ADL評価②				
第5回	ADL評価③				
第6回	自助具、日常生活用具の種類や選択				
第7回	移動補助具の種類や選択				
第8回	車椅子の種類や選択				
第9回	障害別のADL：自助具・日常生活用具の選択				
第10回	障害別のADL：ADL指導				
第11回	片麻痺のADL				
第12回	関節リウマチのADL				
第13回	大腿骨頸部骨折のADL				
第14回	変形性膝関節症のADL				
第15回	下肢切断のADL				
成績評価基準					
筆記試験を実施する。60点未満となった場合、再試験を実施する。					
教科書					
・南江堂 シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト ・金原出版 脳卒中の機能評価－SIASとFIM－ [基礎編]					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期およびクリニックにおいて臨床経験をもつ理学療法士が、ADLの基本的な知識やADL評価、各疾患ごとの必要な機器等について講義を行う。					

授業科目名	装具学			(フリガナ) 担当教員名	ナカムラ ナホウ オオモリ ヒロ 中村 宣郎・大森 浩己 イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
装具の名称・構造の理解、適切な装具の選択について習得する。					
GIO (一般目標)					
実習を中心に装具に関する知識を身に付ける (中村 宣郎)					
実習を通じ義肢についての理解を深める (大森 浩己)					
装具の名称・構造を理解し、各疾患への適切な装具の選択ができるようになる (石原 直樹)					
SBO (行動目標)					
・義肢装具の種類・名称・適合判定について整理して学習しましょう。(中村 宣郎・大森 浩己)					
・装具の名称や装具の適応を理解する。					
授業回数	授業内容				
第1回	装具学総論				
第2回	上肢装具の種類と名称				
第3回	下肢装具の種類と名称				
第4回	体幹装具の種類と名称				
第5回	靴型装具の種類と名称				
第6回	各疾患に対する装具療法①				
第7回	各疾患に対する装具療法②				
第8回	装具概論				
第9回	装具実習				
第10回	装具実習				
第11回	装具実習				
第12回	実習 下腿義肢				
第13回	実習 大腿義足				
第14回	実習 大腿義足				
第15回	実習 上腕義手				
				中村 宣郎	
				大森 浩己	
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
医歯薬出版株式会社 イラストでわかる装具療法					
参考書					
川村 次郎 他(編) : 義肢装具学 第4版 医学書院, 2014 (中村 宣郎・大森 浩己)					
実務経験に関する内容					
義肢装具士、整形外科領域で臨床経験を持つ理学療法士が、装具療法の基本となる各装具の名称、構造を説明し、また代表的な疾患に対する装具の選択等について講義を行う。					

授業科目名	義肢学			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
義肢の名称・構造の理解し、切断者へのリハビリテーションについて理解する。					
GIO (一般目標)					
各義足の構造を理解して、歩行時に適切なアライメントの修正を指導できるようにする。					
SBO (行動目標)					
適切な各義足選択していくために、義足の部品や構造を習得し、異常歩行の問題を検討する。 また義足を装着するために必要な理学療法について学習する。					
授業回数	授業内容				
第1回	義肢学総論				
第2回	切断患者の評価				
第3回	下腿義足の構造および特徴				
第4回	下腿義足のアライメントチェック				
第5回	下腿義足の断端管理および理学療法①				
第6回	下腿義足の断端管理および理学療法②				
第7回	大腿義足の構造および特徴				
第8回	大腿義足のアライメントチェック				
第9回	大腿義足の断端管理および理学療法①				
第10回	大腿義足の断端管理および理学療法②				
第11回	股義足の構造および特徴				
第12回	膝義足の構造および特徴				
第13回	サイム義足・足義足の構造および特徴				
第14回	サイム義足・足義足の理学療法				
第15回	まとめ				
成績評価基準					
定期試験100%					
教科書					
医歯薬出版株式会社 イラストでわかる装具療法					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科領域で臨床経験を持つ理学療法士が、義肢療法の基本となる各部品の名称、構造を説明し、また各切断に対するの治療の流れや実施方法について講義を行う。					

授業科目名	中枢神経治療学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
脳血管障害に対する急性期から維持期までの治療や理学療法、予防について理論を学習するもの。					
GIO (一般目標)					
脳血管障害に対する理学療法の流れと考え方、方法などを習得する。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 急性期、回復期、維持期理学療法の概要を説明できる ガイドラインやクリティカルパスについて説明できる 					
授業回数	授業内容				
第1回	脳血管障害の復習				
第2回	急性期理学療法の概要とリスク管理				
第3回	座位練習、起き上がり練習の進め方				
第4回	回復期理学療法の概要、座位姿勢と理学療法				
第5回	車椅子移乗と操作について				
第6回	立ち上がり動作と立位姿勢				
第7回	摂食嚥下障害				
第8回	症例検討				
第9回	筋緊張促進・抑制の理論				
第10回	片麻痺の歩行				
第11回	プッシャー症候群、ADL動作				
第12回	肩関節亜脱臼、肩手症候群				
第13回	CI療法・高次脳機能障害				
第14回	維持期理学療法の概要				
第15回	ガイドラインとクリティカルパス				
成績評価基準					
前期・後期にそれぞれ筆記試験を実施する。60点に満たない場合は再試験を行う。					
教科書					
原寛美 吉尾雅春 編：脳卒中理学療法の理論と技術.MEDICAL VIEW					
千田富義 高見彰淑 編：リハ実践テクニク 脳卒中.MEDICAL VIEW					
参考書					
監 千住秀明 編 山元総勝：中枢神経疾患の理学療法.神陵文庫.					
監 玉木彰 編 諸橋勇：症例検討で身につける 脳卒中の理学療法.羊土社					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	中枢神経治療学演習			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	演習	単位数	2	時間数	60
授業概要					
脳血管障害に対する急性期から維持期までの治療や理学療法、予防について理論を踏まえた実践を学習するもの。					
GIO (一般目標)					
脳血管障害に対する理学療法手技の基本を習得する。					
SBO (行動目標)					
・急性期、回復期、維持期における基本的理学療法を理解し、実施できる。					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	運動機能の評価			第16回	筋緊張促通・抑制手技
第2回	姿勢障害の評価			第17回	荷重刺激と装具
第3回	ポジショニング・体位変換			第18回	歩行練習
第4回	関節可動域運動			第19回	応用歩行練習
第5回	座位練習 (ベッド上～端坐位)			第20回	ADL動作の理学療法
第6回	座位練習 (端坐位～車椅子)			第21回	ADL動作の理学療法
第7回	起き上がり練習			第22回	プッシャー症候群、肩の理学療法
第8回	起き上がり練習			第23回	運動失調に対する理学療法
第9回	シーティング			第24回	座位練習・起き上がり練習
第10回	車椅子の調整と移乗動作			第25回	立ち上がり練習・荷重練習
第11回	車椅子の操作練習			第26回	車椅子・歩行
第12回	立ち上がり練習			第27回	症例検討
第13回	立位バランス・下肢の理学療法			第28回	症例検討
第14回	摂食嚥下障害の理学療法			第29回	症例検討
第15回	ポジショニング・関節可動域運動			第30回	起き上がり～移乗動作
成績評価基準					
前期と後期にそれぞれ実技試験を実施する。60点未満の場合は再試験を行う。 通年成績評価は前期と後期を総合的に判断する。					
教科書					
原寛美 吉尾雅春 編：脳卒中理学療法の理論と技術.MEDICAL VIEW 千田富義 高見彰淑 編：リハ実践テクニク 脳卒中.MEDICAL VIEW					
参考書					
監 千住秀明 編 山元総勝：中枢神経疾患の理学療法.神陵文庫。 監 玉木彰 編 諸橋勇：症例検討で身につける 脳卒中の理学療法.羊土社					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	運動器疾患治療学			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
各疾患の関節等の解剖学・運動学は復習しておいて下さい。実際にリハビリするイメージができるまで理解を深めていきましょう。					
GIO (一般目標)					
運動器における各運動器疾患の理学療法をイメージし、治療を選択できるようになる。					
SBO (行動目標)					
各運動器疾患の発生機序・病態を理解し、理学療法の方針を説明できるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	総論				
第2回	上腕骨近位端骨折の理学療法				
第3回	胸郭出口症候群の理学療法				
第4回	肩関節周囲炎の理学療法				
第5回	上腕骨顆上骨折の理学療法				
第6回	橈骨遠位端骨折の理学療法				
第7回	手部の疾患に対する理学療法				
第8回	頸椎症の理学療法				
第9回	胸椎・腰椎圧迫骨折の理学療法				
第10回	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法				
第11回	腰部脊柱管狭窄症の理学療法				
第12回	大腿骨近位部骨折の理学療法				
第13回	変形性膝変関節症の理学療法				
第14回	人工関節の理学療法				
第15回	関節リウマチの理学療法				
成績評価基準					
定期試験100%					
前期・後期の定期試験の結果を総合し、成績とする。					
教科書					
羊土者 ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション					
医学書院 標準整形外科学					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期・外来リハにおいて臨床経験をもつ理学療法士が、運動器疾患に対する疾患の捉え方や治療法について、模擬事例を提示しながら講義を行う。					

授業科目名	運動器疾患治療学演習			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	2	時間数	60
授業概要					
各疾患の関節等の解剖学・運動学は復習しておいて下さい。実際にリハビリするイメージができるまで理解を深めていきましょう。					
GIO (一般目標)					
運動器における各運動器疾患の理学療法をイメージし、治療を実施できるようになる。					
SBO (行動目標)					
各運動器疾患の発生機序・病態を理解し、理学療法のプログラム立案を立案できるようになる。					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	総論		第16回	胸椎・腰椎圧迫骨折の理学療法①	
第2回	上腕骨筋端骨折の理学療法①		第17回	胸椎・腰椎圧迫骨折の理学療法②	
第3回	上腕骨筋端骨折の理学療法②		第18回	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法①	
第4回	上腕骨顆上骨折の理学療法③		第19回	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法②	
第5回	胸郭出口症候群の理学療法①		第20回	腰部脊柱管狭窄症の理学療法①	
第6回	胸郭出口症候群の理学療法②		第21回	腰部脊柱管狭窄症の理学療法②	
第7回	上腕骨顆上骨折の理学療法①		第22回	腰椎分離すべり症の理学療法①	
第8回	上腕骨顆上骨折の理学療法②		第23回	大腿骨近位部骨折の理学療法①	
第9回	橈骨遠位端骨折の理学療法①		第24回	大腿骨近位部骨折の理学療法②	
第10回	橈骨遠位端骨折の理学療法②		第25回	大腿骨近位部骨折の理学療法③	
第11回	手部の疾患に対する理学療法①		第26回	変形性膝関節症の理学療法①	
第12回	手部の疾患に対する理学療法②		第27回	変形性膝関節症の理学療法②	
第13回	頸椎症の理学療法①		第28回	関節リウマチの理学療法①	
第14回	頸椎症の理学療法②		第29回	関節リウマチの理学療法②	
第15回	まとめ		第30回	まとめ	
成績評価基準					
定期試験100%					
前期・後期の定期試験の結果を総合し、成績とする。					
教科書					
羊土者 ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション					
医学書院 標準整形外科学					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期・外来リハにおいて臨床経験をもつ理学療法士が、運動器疾患に対する疾患の捉え方や治療法について、模擬事例を提示しながら講義を行う。					

授業科目名	脊髄損傷治療学			(フリガナ) 担当教員名	キッカワ 吉川 幸次郎 コウジロウ
開講学年	3	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
前期は脊髄損傷による障害・合併症・一部ADL動作を学び、後期は脊髄損傷の移動方法、日常生活方法を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
脊髄損傷の医学的な障害像や治療法の基礎的な知識をもとに、各損傷レベルに応じた移動手段や日常生活指導を実施できる。					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 脊髄損傷の障害像、合併症、評価方法を理解する 各損傷レベルに応じた移動手段、日常生活方法などを理解する 					
授業回数	授業内容		授業回数	授業内容	
第1回	脊髄の構造と機能		第16回	四つ這い動作・膝立ち位	
第2回	脊髄損傷の評価 (一般的評価とASIA, Zancolliの分類)		第17回	移乗動作 (車いすとベッド、トイレ)	
第3回	脊髄損傷の理解に必要な残存筋と髄節		第18回	移乗動作 (車いすとベッド、トイレ)	
第4回	合併症と随伴症状 (褥瘡)		第19回	脊髄損傷患者の車いすの選択	
第5回	合併症と随伴症状 (排尿・排便障害)		第20回	脊髄損傷者の車いす操作の指導	
第6回	合併症と随伴症状 (筋骨格系と自律神経反射)		第21回	脊髄損傷者の車いす操作の指導	
第7回	その他の合併症		第22回	脊髄損傷者の車いす操作の指導	
第8回	急性期のリハビリテーション		第23回	立位・歩行練習	
第9回	急性期のリハビリテーション		第24回	立位・歩行練習	
第10回	脊髄損傷の肺理学療法		第25回	日常生活動作 (食事)	
第11回	脊髄損傷の肺理学療法		第26回	日常生活動作 (更衣)	
第12回	回復期のリハビリテーション		第27回	日常生活動作 (その他のADL)	
第13回	回復期のリハビリテーション		第28回	不全損傷の評価と理学療法	
第14回	回復期のリハビリテーション (寝返り・起き上がり)		第29回	不全損傷の評価と理学療法	
第15回	回復期のリハビリテーション (寝返り・起き上がり)		第30回	不全損傷の評価と理学療法	
成績評価基準					
筆記試験60% 実技試験30%					
教科書					
岩崎 洋 編集：脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版.文光堂					
神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷マニュアル編集委員会 著：脊髄損傷リハビリテーション					
参考書					
実務経験に関する内容					
介護老人保健施設にて実務に従事					

授業科目名	小児疾患系治療学			(フリガナ) 担当教員名	イシハラ ナオキ 石原 直樹
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
小児疾患の症状や障害を理解し、各疾患に適応する理学療法治療を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
正常発達、姿勢反射を基礎とし、脳性麻痺を他の小児疾患の評価および治療を説明できるようになる。					
SBO (行動目標)					
正常発達、姿勢反射などを再学習し、各疾患の病態・障害などの異常発達を知り、理学療法に必要な評価および治療方法について学ぶ。					
授業回数	授業内容				
第1回	正常運動発達 (姿勢、粗大運動、微細運動)				
第2回	発達・運動発達の評価と正常運動発達				
第3回	運動発達の理論/姿勢反射と運動発達				
第4回	異常姿勢反射と運動発達障害				
第5回	脳性麻痺総論				
第6回	痙直型四肢麻痺児の理学療法				
第7回	痙直型両麻痺児の理学療法				
第8回	痙直型片麻痺児の理学療法				
第9回	純粹型アテトーゼ型麻痺児の理学療法				
第10回	緊張型アテトーゼ型麻痺児の理学療法				
第11回	重度心身障害の療育と理学療法				
第12回	筋ジストロフィー症の分類及び特徴と理学療法				
第13回	筋ジストロフィー症の分類及び特徴と理学療法				
第14回	その他の小児疾患 (二分脊椎、神経発達症) の理学療法				
第15回	低出生体重児・ハイリスク児・低筋緊張児、ダウン症候群、知的障害児の理学療法				
成績評価基準					
定期試験 100%					
教科書					
南江堂 シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法テキスト					
参考書					
実務経験に関する内容					
維持期およびクリニックでの臨床経験をもつ理学療法士が、小児疾患の捉え方、評価・治療法の選択について模擬事例を提示しながら講義を行う。					

授業科目名	内部障害治療学			(フリガナ) 担当教員名	フチガミ チ トシ 上 年
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義・演習・実習	単位数	4	時間数	60
授業概要					
呼吸器疾患および循環器疾患を中心として理学療法による取り組みを講義および必要な限りで実習より学ぶ。					
GIO（一般目標）					
呼吸器・循環器のリハビリテーション2年時の呼吸器、循環器など内科学とも関連して理解する。					
SBO（行動目標）					
これまで学んできた生理学・解剖学・内科学を復習しつつ講義に臨むこと					
授業回数	授業内容			授業回数	授業内容
第1回	呼吸器系の解剖・生理			第16回	心電図①
第2回	呼吸機能の評価①			第17回	心電図②
第3回	呼吸機能の評価②			第18回	循環器疾患の活動参加の評価
第4回	間質性肺疾患			第19回	運動負荷試験と理学療法
第5回	呼吸理学方法（排痰法・喀痰吸引）			第20回	回復期の理学療法
第6回	運動療法とADL			第21回	包括的な心臓リハビリテーション
第7回	慢性閉塞性肺疾患（COPD）			第22回	代謝障害（膵臓・肝臓・腎臓）
第8回	間質性肺疾患			第23回	代謝系の生理・生化学
第9回	呼吸器合併症			第24回	糖尿病
第10回	胸腹部外科周術期			第25回	糖尿病の合併症
第11回	心臓その他循環器系の解剖・生理			第26回	2型糖尿病に対する運動療法
第12回	虚血性心疾患			第27回	1型小児・高齢糖尿病に対する運動療法
第13回	心不全			第28回	糖尿病の運動療法と足病変
第14回	末梢動脈疾患			第29回	腎臓疾患
第15回	循環疾患の画像評価			第30回	腎臓疾患と人工透析と理学療法
成績評価基準					
筆記テスト 90%					
取り組み姿勢10%（出席）					
教科書					
編集 高橋哲也、神津 玲、野村卓生：内部障害理学療法学、医学書院					
参考書					
実務経験に関する内容					
医療・福祉に従事した経験を持ち、心臓リハビリテーション指導士認定を取得している理学療法士が講義・演習を行う。					

授業科目名	神経筋疾患治療学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
神経筋疾患（神経難病）の症状や障害を理解して、各疾患に応じた理学療法治療を学ぶ。					
GIO（一般目標）					
神経筋疾患（神経難病）の症状、評価方法を知り、各症状や障害に応じた理学療法治療を実施できるようになる。					
SBO（行動目標）					
パーキンソン病をはじめ、他の神経筋疾患（神経難病）の症状・障害に応じた理学療法について理解し、説明できる。					
授業回数	授業内容				
第1回	パーキンソン病を理解するために必要な基礎的知識				
第2回	パーキンソン病の症状				
第3回	パーキンソン病の評価				
第4回	パーキンソン病の治療と理学療法				
第5回	小脳の基礎と脊髄小脳変性症の病態				
第6回	脊髄小脳変性症の評価と理学療法				
第7回	脊髄小脳変性症の評価と理学療法				
第8回	筋萎縮性側索硬化症の病態と評価				
第9回	筋萎縮性側索硬化症の症状と理学療法				
第10回	多発性硬化症の理学療法				
第11回	末梢神経疾患の症状と理学療法				
第12回	ギラン・バレー症候群の症状と理学療法				
第13回	重症筋無力症と多発性筋炎・皮膚筋炎の症状と理学療法				
第14回	頭部外傷の分類と理学療法				
第15回	脳腫瘍の症状と理学療法				
成績評価基準					
筆記試験を実施する。60点未満の場合は再試験を実施する。					
教科書					
潮見泰蔵 編：神経障害理学療法学.羊土社					
潮見泰蔵 編：ビジュアル実践リハ 脳・神経系のリハビリテーション.羊土社					
参考書					
潮見泰蔵 編：ビジュアルレクチャー神経理学療法学.医歯薬出版株式会社.					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	スポーツ健康増進学			(フリガナ) 担当教員名	ヤマモト タカヒコ 山本 圭彦
開講学年	3年	開講学期	通年	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
基本的なスポーツ障がいと外傷に対する理学療法を理解する					
GIO (一般目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的なスポーツ障がいと外傷に対する理学療法が実践できる ・ 健康増進に関する知識を深め、現在社会へ対策を理解する 					
SBO (行動目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ分野に興味を持ち、学習意欲が向上する ・ 整形外科疾患の理学療法へ応用ができるようになる ・ 自ら健康増進に関する行動が取れるようになる 					
授業回数	授業内容				
第1回	スポーツに関わる理学療法士の役割。スポーツ障がいと外傷の違い。				
第2回	異常アライメントと下肢疾患との関係				
第3回	異常アライメントに関する身体的機能				
第4回	異常アライメントに関する理学療法				
第5回	投球障害				
第6回	投球障害に対する検査				
第7回	投球障害に対する理学療法				
第8回	成長期障害				
第9回	成長期障害に対する検査				
第10回	成長期障害に対する理学療法				
第11回	足関節捻挫に対する検査				
第12回	足関節捻挫に対する理学療法				
第13回	体力に関する基礎知識				
第14回	日本における健康増進の対策				
第15回	日本における健康増進の対策				
成績評価基準					
総合評価として後期末試験を実施し、60点未満を不合格とする。不合格の場合は、再試験の受験対象となる。					
教科書					
神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション，羊土社，2012					
参考書					
実務経験に関する内容					
整形外科を中心とした医療機関（病院・クリニック）で勤務してきた。また一部、介護保険領域（通所ケア・訪問リハビリテーション）も担当していた。学術活動としては、保健学博士を取得している。					

授業科目名	生活環境学			(フリガナ) 担当教員名	ミヤケ 三宅 アヤコ 綾子
開講学年	3年	開講学期	前期	必修/選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	時間数	30
授業概要					
障害者や高齢者が自宅を中心とした地域での生活が継続できるよう、環境整備についての施策等を理解し、住環境整備の知識と技術を学ぶ。					
GIO (一般目標)					
対象者の自宅生活を中心とした地域における生活を支援するための知識・技術を習得する。					
SBO (行動目標)					
対象者の自宅での生活支援における法律や施策について説明できる。 住環境(生活環境)の課題を把握する評価と改善に向けての改修について立案できるようになる。					
授業回数	授業内容				
第1回	総論：リハビリテーションと生活支援、生活環境整備における理学療法士の役割				
第2回	理学療法士に必要な住宅改修の視点				
第3回	高齢者・障害者を取り巻く生活状況				
第4回	日本式住宅(木造住宅)の特徴と問題点				
第5回	生活環境整備に関する法的制度				
第6回	基本的な建築図面の読み方・書き方				
第7回	生活環境整備の進め方				
第8回	段差・スペース・床材				
第9回	手すり・建具				
第10回	玄関・アプローチ・廊下・階段				
第11回	トイレ・浴室				
第12回	台所・食堂・居間・寝室				
第13回	住宅改修の症例ワーク				
第14回	住宅改修の症例ワーク				
第15回	まとめ				
成績評価基準					
筆記試験を実施する。60点未満の場合は再試験を実施する。					
教科書					
細田多穂 監修：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ.生活環境学テキスト.南江堂					
参考書					
野村 歡 著：OT・PTのための住環境整備論.三輪書店					
実務経験に関する内容					
急性期・回復期・維持期、外来リハ、訪問リハ、通所リハ、施設リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、その経験を生かした事例等を盛り込み、講義・演習を行う。					

授業科目名	臨床地域実習			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ 中牟田 祐典 ヒロノリ
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	2	時間数	90
授業概要					
臨床現場において地域包括システムおよびシステムケアについて積極的、自発的に参加し学んでほしい。					
GIO (一般目標)					
理学療法士が施設(地域)で求められる役割について理解する。 地域における多職種協働アプローチを理解する。					
SBO (行動目標)					
地域における理学療法の役割を実習指導者のある程度の助言・指導のもと、対象者の問題点を明確にしていく考え方を身につける。					
授業回数	授業内容				
	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションでの実習 80時間 臨床地域実習事前・事後に関するセミナー及び評価 10時間 * 臨床実習は45時間で1単位とします。				
成績評価基準					
臨床地域実習評価表(100%)					
教科書					
教科書指定なし					
参考書					
指定なし					
実務経験に関する内容					

授業科目名	臨床短期実習			(フリガナ) 担当教員名	ナカムタ 中牟田 ヒロノリ 祐典
開講学年	3年	開講学期	後期	必修/選択	必修
授業形態	実習	単位数	3	時間数	135
授業概要					
見学実習、評価実習を踏まえて、患者様への対応、評価、理学療法プログラム立案までを行う。					
GIO (一般目標)					
患者様の状況や主訴、demanddを理解した理学療法プログラム立案ができる。					
SBO (行動目標)					
患者様の評価結果から問題点を抽出することができる。 患者様の評価結果から統合と解釈ができるようになる。					
授業回数	授業内容				
	臨床短期実習施設での実習 120時間 臨床短期実習事前・事後に関するセミナー及び評価 15時間				
成績評価基準					
臨床短期実習評価表 (100%)					
教科書					
指定なし					
参考書					
指定なし					
実務経験に関する内容					
保健・医療・福祉など、臨床現場における理学療法士の指導の元、対象者への評価・治療を見学・共同参加・実施して学ぶ実習を行う。					